

Attracting Tomorrow



2025年3月期
通期決算説明会

TDK株式会社
IR・SRグループ
2025年4月28日

目次

1

2025年3月期 連結業績概要

副社長執行役員CFO 山西 哲司

2

2026年3月期 通期業績の見通し

副社長執行役員CFO 山西 哲司

3

中期経営計画の進捗

社長執行役員CEO 齋藤 昇

4

補足資料

- 25年3月期は、売上高、営業利益等、全ての項目で過去最高を実現しました。株主還元も期初計画よりも上方修正・増配します。
- 26年3月期は、米国追加関税など不確実性が増しており、“Control the Controllable”を意識した経営を進めます。リスクシナリオにおいても配当水準（30円/株）を維持する方針です。
- 中期経営計画は、着実に進捗しています。事業ポートフォリオマネジメント強化（ROIC経営の強化）では、守りとして重点モニタリング事業の改善、見直し、攻めとして成長分野であるAIエコシステムにかかわる技術・製品へ投資を進めています。
- 投資家・アナリストの皆様との対話も強化しています。技術・人的資本など未財務資本強化について2025年9月1日に Investor Dayを企画しております。今後も対話を強化させていただきます。

2025年3月期 通期連結業績概要

副社長執行役員CFO

山西 哲司

2025年3月期 通期決算のポイント

- ICT市場及びHDD市場の堅調な需要継続により、売上高・営業利益とも過去最高を更新

売上高

2兆2,048億円

〔 前期比 **4.8%**増 〕

営業利益

2,242億円

〔 前期比 **29.7%**増 〕

ポイント

- ICT市場向け小型二次電池、HDD関連部品、センサの販売が大幅に増加
- HDD市場需要の回復が継続し、HDDヘッド及びサスペンションの販売が大幅に増加
- BEV(電気自動車)の販売減速により、自動車市場向け受動部品、センサの販売が減少
- 産業機器市場向け電源、センサの販売が減少

2025年3月期 通期連結決算概要

- 売上高及び営業利益は前年同期比で増収増益
- 一時費用：202億円

(億円)	2024年3月期 通期実績	2025年3月期 通期実績	前期比	
			増減	増減率
売上高	21,039	22,048	+1,009	+4.8%
営業利益	1,729	2,242	+513	+29.7%
営業利益率	8.2%	10.2%	+2.0pt	-
税引前利益	1,792	2,378	+586	+32.7%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	1,247	1,672	+425	+34.1%
ROIC	5.3%	6.7%	+1.4pt	-
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	2,304	2,010	△294	△12.8%
1株当たり当期利益 (円) ※	65.74	88.10	-	-
対ドル為替レート (円)	144.48	152.66	5.7%の円安	
対ユーロ為替レート (円)	156.69	163.86	4.6%の円安	

為替変動による影響金額

売上高	約957億円の増収
営業利益	約197億円の増益

為替感応度

(1円の変動による影響額)
ドル

売上高	110億円
営業利益	20億円

ユーロ

売上高	20億円
営業利益	3億円

※: 当社は、2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株を5株に分割いたしました。「1株当たり当期利益」につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

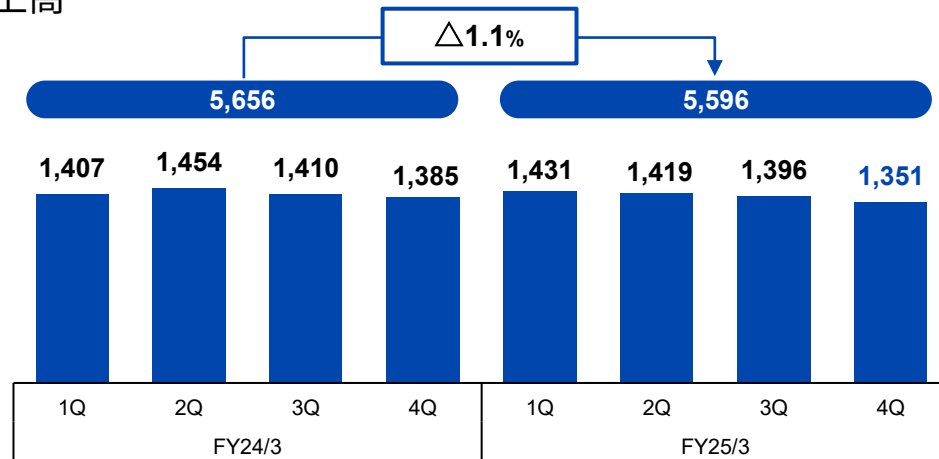
2025年3月期 事業別概況

受動部品事業

- 自動車市場向け及び産業機器市場向け販売減により減益

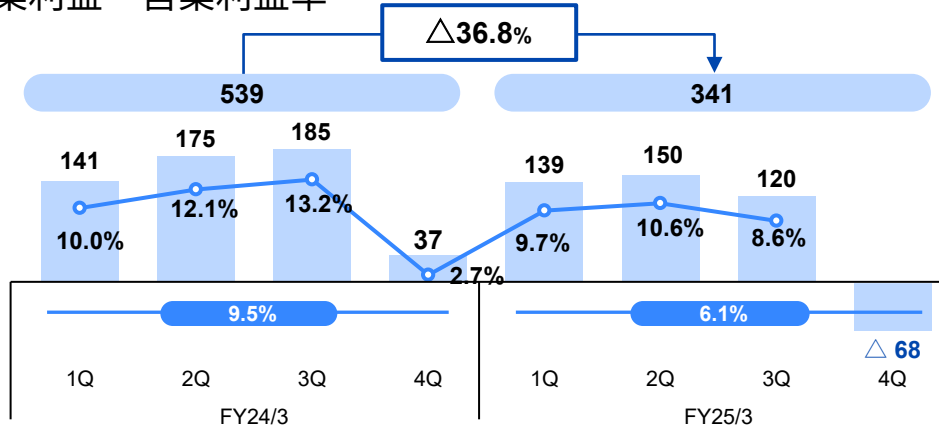
売上高

(億円)



営業利益・営業利益率

(億円)



セラミック コンデンサ

- ・ 前期比で減収減益
- ・ 自動車市場及び産業機器市場向け販売が減少

アルミ・ フィルム コンデンサ

- ・ 前期比で減収減益
- ・ 産業機器市場向け販売増も、自動車市場向け販売が減少

インダクティブ デバイス

- ・ 前期比で増収増益
- ・ 自動車市場及びICT市場向けの販売が増加も、産業機器市場向け販売が減少

高周波部品

- ・ 前期比で減収減益
- ・ 主に自動車市場向けの販売が増加もICT市場向け販売が減少

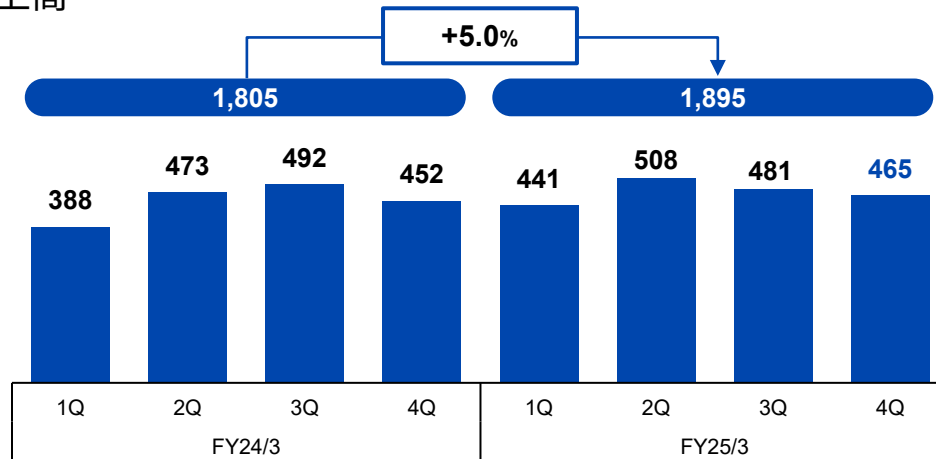
圧電材料部品・ 回路保護部品

- ・ 前期比で減収減益
- ・ ICT市場及び自動車市場向け販売が減少

- ICT市場向け販売増も、産業機器市場向け及び自動車市場向け販売減により減益

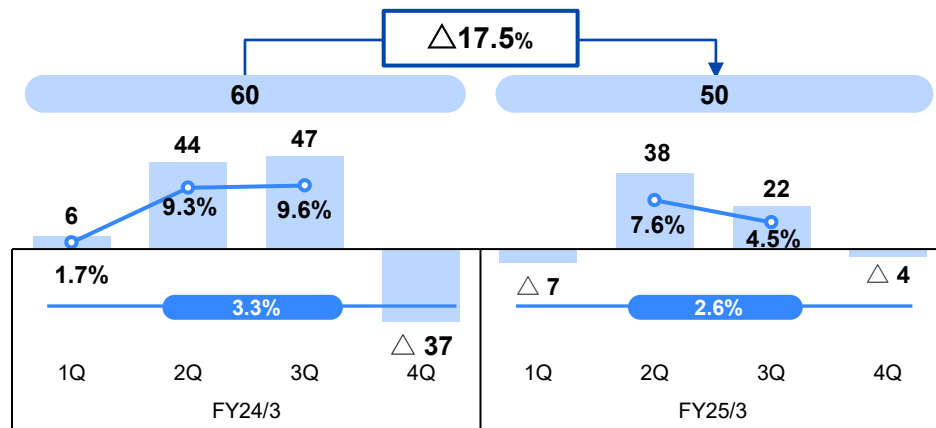
売上高

(億円)



営業利益・営業利益率

(億円)



温度・
圧力センサ

- 前期比で減益
- 産業機器市場向け販売が増加も自動車市場向け販売が減速

磁気センサ

- 前期比で増収減益
- ICT市場向けTMRセンサ及び自動車市場向けホールセンサの販売が拡大

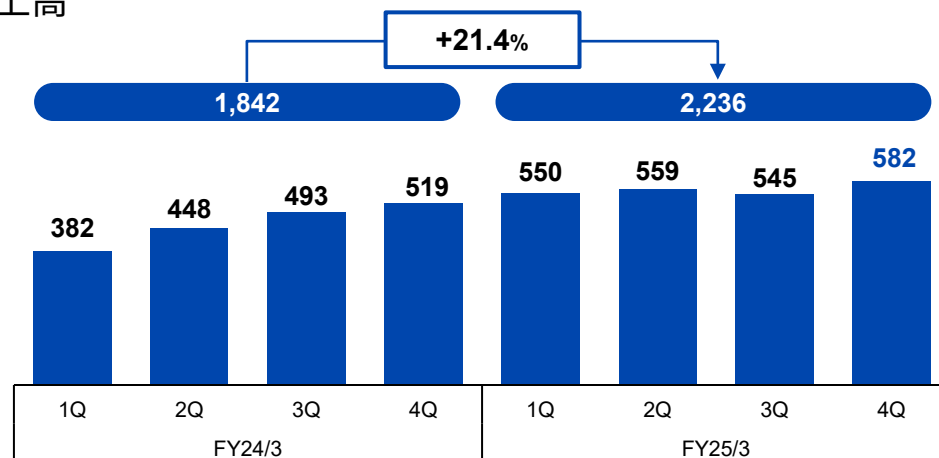
MEMSセンサ

- 前期比で減収
- ICT市場向けマイクロフォンの販売が増加も産業機器市場向け及び自動車市場向けモーションセンサの販売減少

- HDD市場需要回復により、HDD関連部品の販売が大幅増、構造改革効果も寄与し黒字転換

売上高

(億円)



HDDヘッド・
HDDサスペン
ション

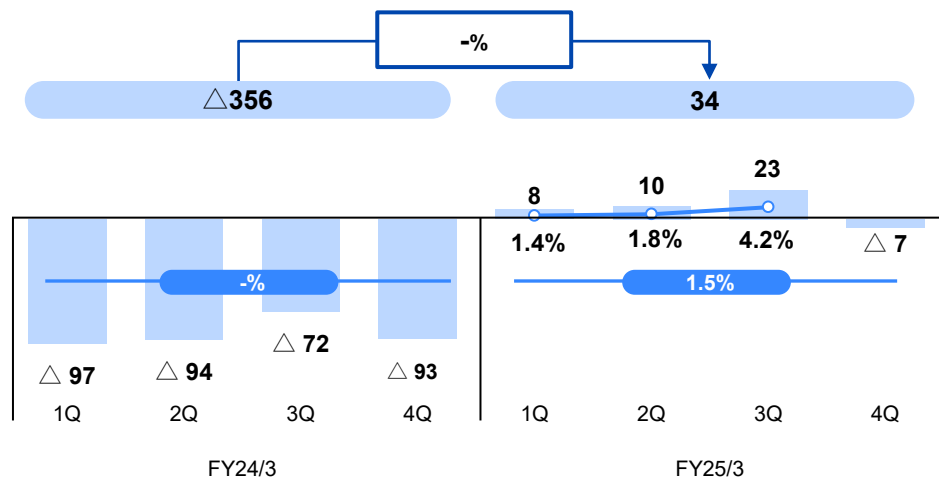
- 前期比で大幅増収、黒字転換

マグネット

- 前期比で減収減益
- xEV市場向けの販売が減少

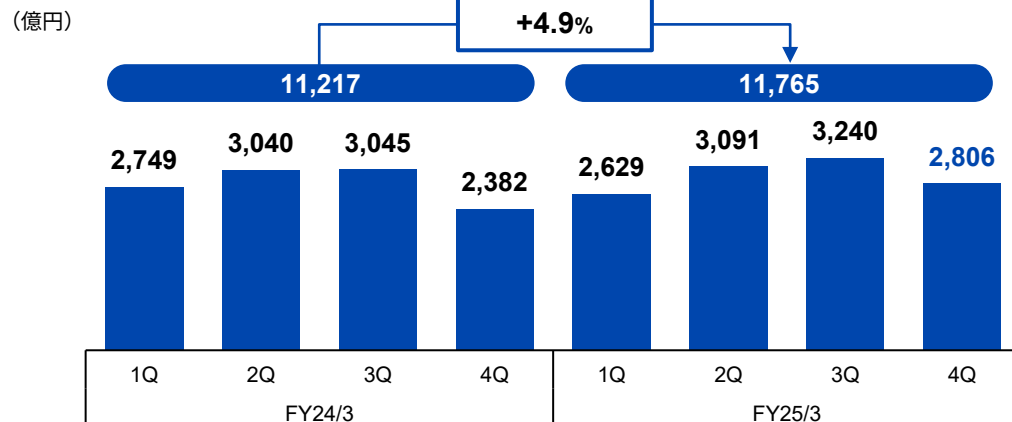
営業利益・営業利益率

(億円)

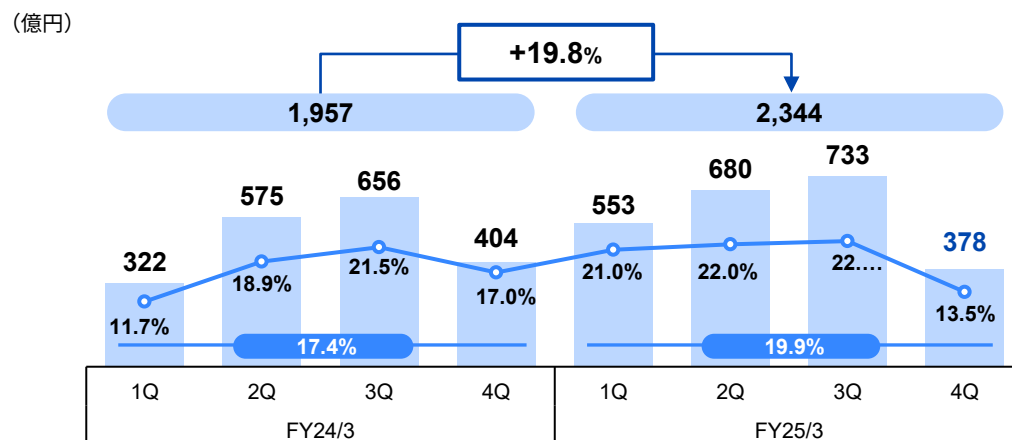


- 小型二次電池は、ICT市場向け需要回復により販売数量増、大幅な増益

売上高



営業利益・営業利益率



エネルギーデバイス (二次電池)

- 小型二次電池は、新モデル立ち上がり等の販売数量増により前期比増益
- 産業機器市場向け中型二次電池の販売が減少

電源

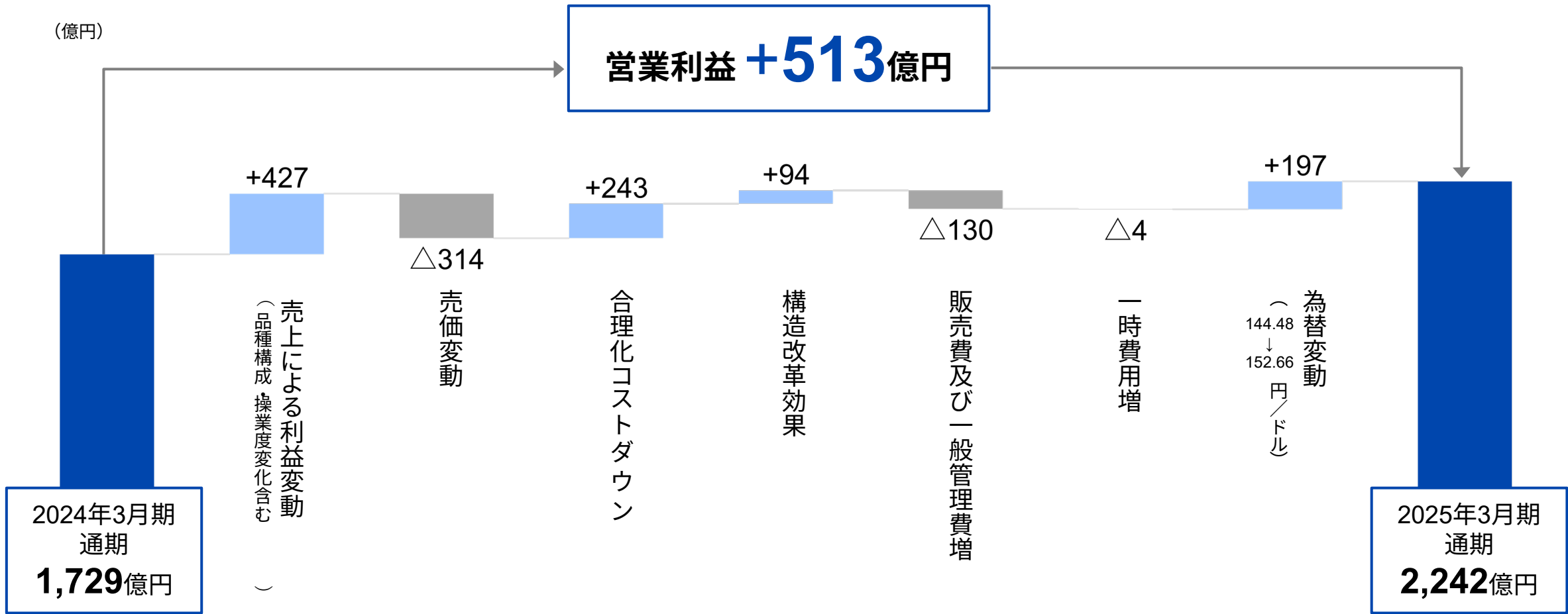
- 産業機器用電源は減収減益
- EV電源は減収

事業別四半期実績

(億円)		2024年3月期	2025年3月期	2025年3月期	前年同期比 [C] – [A]		3Q-4Q推移 [C] – [B]	
		4Q [A]	3Q [B]	4Q [C]	増減	増減率	増減	増減率
売上高	コンデンサ	605	575	572	△33	△5.4%	△3	△0.5%
	インダクティブデバイス	483	518	490	+7	+1.4%	△29	△5.5%
	その他受動部品	297	303	289	△9	△2.9%	△14	△4.6%
	受動部品	1,385	1,396	1,351	△35	△2.5%	△46	△3.3%
	センサ応用製品	452	481	465	+13	+2.9%	△16	△3.3%
	磁気応用製品	519	545	582	+64	+12.3%	+38	+7.0%
	エネルギー応用製品	2,382	3,240	2,806	+424	+17.8%	△434	△13.4%
	その他	111	149	139	+28	+24.7%	△10	△6.8%
合計		4,849	5,810	5,343	+493	+10.2%	△468	△8.1%
営業利益	受動部品	37	120	△68	△105	-	△188	-
	センサ応用製品	△37	22	△4	+33	-	△25	-
	磁気応用製品	△93	23	△7	+87	-	△29	-
	エネルギー応用製品	404	733	378	△26	△6.5%	△356	△48.5%
	その他	△17	△9	△23	△6	-	△14	-
	小計	293	889	276	△17	△5.7%	△613	△68.9%
	調整	△122	△131	△125	△4	-	+6	-
合計		171	758	151	△20	△11.9%	△607	△80.1%
営業利益率		3.5%	13.0%	2.8%	-0.7pt	-	-10.2pt	-
対ドル為替レート (円)		148.31	152.29	152.82				
対ユーロ為替レート (円)		161.16	162.64	160.69				

(注) 当第1四半期における組織変更により、従来「受動部品」のその他受動部品に属していた一部製品を「受動部品」のインダクティブデバイスに区分変更しております。これに伴い、前連結会計年度の数値についても変更後の区分に組替えております。

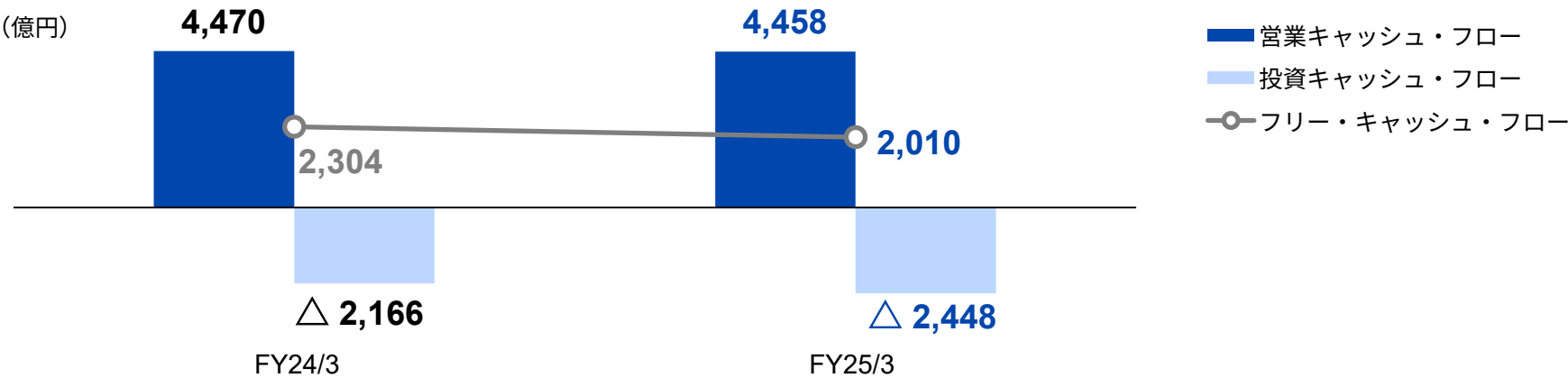
2025年3月期 営業利益増減分析



2025年3月期 キャッシュ・フロー

(億円)	2024年3月期 通期実績	2025年3月期 通期実績	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,470	4,458	△12
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,166	△ 2,448	△283
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	2,304	2,010	△294
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,464	△ 1,433	+30
為替変動による影響額	598	△ 104	△701
現金及び現金同等物の残高	6,500	6,973	+473

■ 営業キャッシュ・フロー、投資キャッシュ・フロー、フリー・キャッシュ・フロー推移



2026年3月期 通期業績の見通し

- xEV市場は拡大も、各市場の伸びは関税措置の影響に左右される

	2025年3月期 通期実績	ベースシナリオ		リスクシナリオ	
		2026年3月期予想 (3月時点)	YoY増減率	2026年3月期予想 (4/28時点)	YoY増減率
(生産台数：百万台)					
自動車※	89.8	90.8	1%	87.1	-3%
xEV	25.0	31.7	+27%	30.4	+22%
HEV	7.2	8.4	+17%	8.1	+12%
PHEV	6.9	8.2	+19%	7.9	+14%
BEV	11.1	15.0	+35%	14.4	+30%
スマートフォン	1,191	1,200	+1%	1,164	-2%
5G スマートフォン	746	783	+5%	760	+2%
HDD	123	124	+1%	118	-4%
ニアライン	61	62	+2%	59	-3%
ノートパソコン	185	187	+1%	181	-2%
タブレット	144	137	-5%	133	-8%

2026年3月期 連結業績見通し

- 米国新政権発足以降の追加関税措置影響による経済環境の見通しが困難なため、ベースシナリオ、リスクシナリオで業績予想

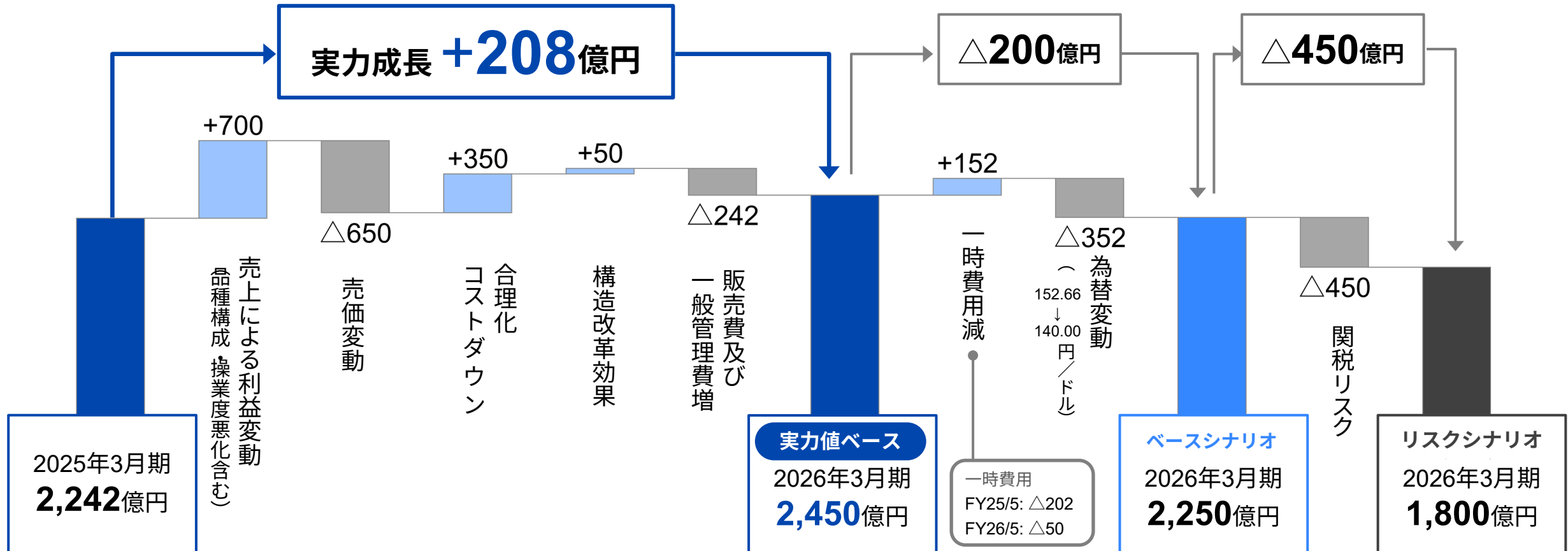
(億円)	2025年3月期 通期実績	ベースシナリオ			リスクシナリオ		
		2026年3月期 通期予想	前期比		2026年3月期 通期予想	前期比	
			増減	増減率		増減	増減率
売上高	22,048	22,000	△48	△0.2%	21,200	△848	△3.8%
営業利益	2,242	2,250	+8	+0.4%	1,800	△442	△19.7%
営業利益率	10.2%	10.2%	±0pt	-	8.5%	-1.7pt	-
税引前利益	2,378	2,380	+2	+0.1%	1,930	△448	△18.8%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	1,672	1,700	+28	+1.7%	1,350	△322	△19.2%
ROIC	6.7%	7.1%	+0.4pt	-	5.6%	-1.1pt	-
FCF	2,010	700	△1,310	△65.2%	350	△1,660	△82.6%
1株当たり当期利益 (円)	88.10	89.59	-	-	71.14	-	-
年間配当金 (円)	30.00	30.00	-	-	30.00	-	-
対ドル為替レート (円)	152.66	140.00	-	-	140.00	-	-
対ユーロ為替レート (円)	163.86	155.00	-	-	155.00	-	-

2026年3月期 セグメント別売上高増減イメージ

	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 通期予想（前期比）		ベースシナリオ 増減要因
		為替レート 2026年3月期想定	為替レート 2025年3月期基準	
受動部品	5,596	△1～+2%	+4～+7%	<ul style="list-style-type: none">自動車市場向けセラミックコンデンサの販売増ICT及び産業機器市場向け各種製品の販売減
センサ応用製品	1,895	+4～+7%	+11～+14%	<ul style="list-style-type: none">MEMSセンサの販売増自動車市場向け温度圧力センサ及び磁気センサの販売増
磁気応用製品	2,236	+1～+4%	+9～+12%	<ul style="list-style-type: none">HDDヘッド及びHDDサスペンションの販売増
エネルギー応用製品	11,765	△5～△2%	+3～+6%	<ul style="list-style-type: none">ICT市場向け小型二次電池の販売増
その他	556	-		
合計	22,048	22,000	+5～+8%	
対ドル為替レート（円）	152.66	140.00	153.00	
対ユーロ為替レート（円）	163.86	155.00	164.00	

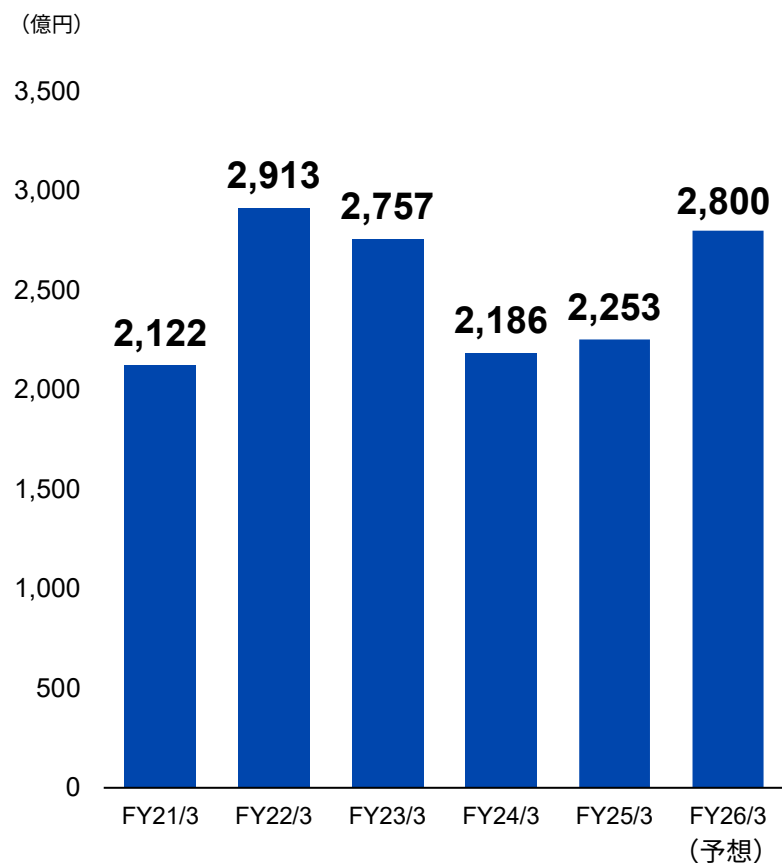
2026年3月期 営業利益増減見通し

(億円)

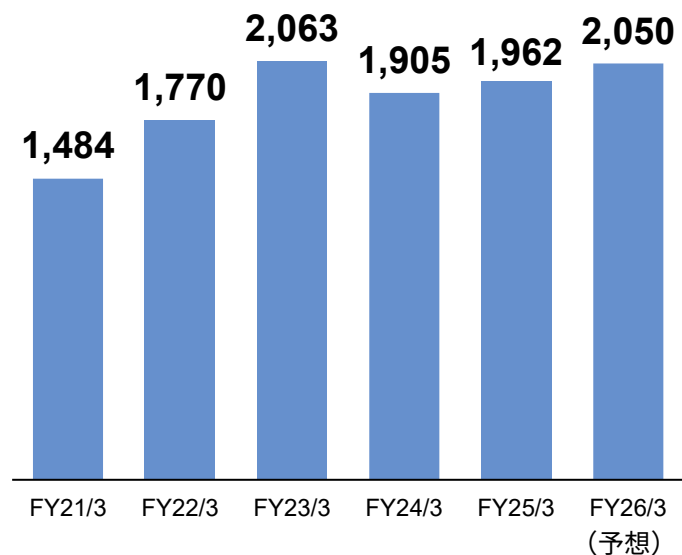


2026年3月期 各種費用見通し

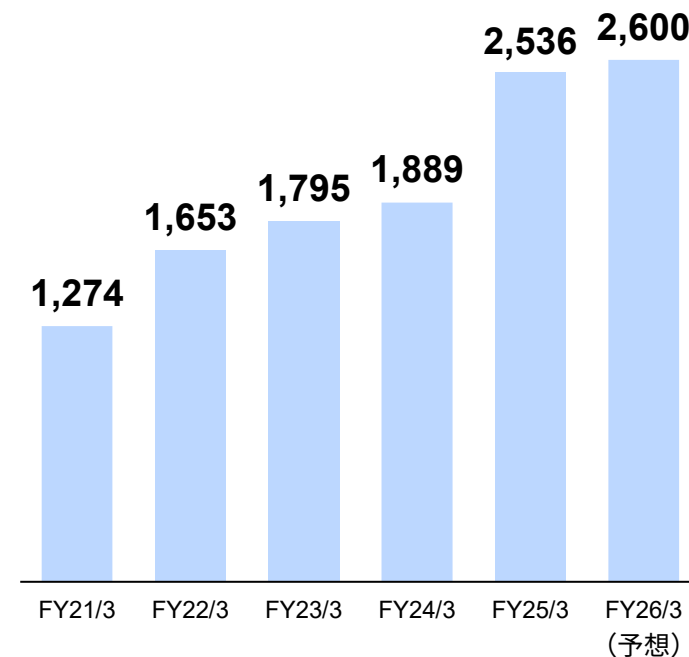
固定資産の取得



減価償却費

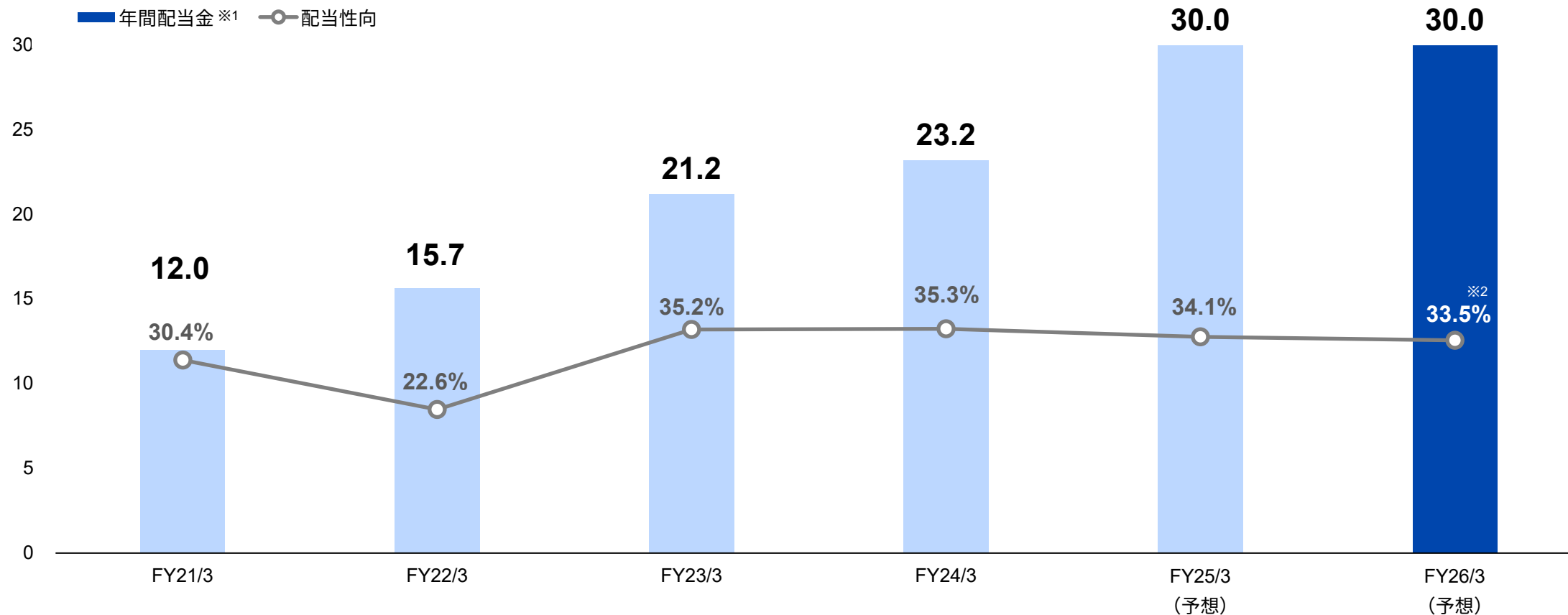


研究開発費



株主還元

- 2025年3月期の年間配当金は、期初計画よりも上方修正し増配
- 2026年3月期は、リスクシナリオにおいても年間配当金30円/株を維持



※1 2024年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行った金額

※2 リスクシナリオでは42.2%の見込み

中期経営計画の進捗

社長執行役員CEO

齋藤 昇

“Control the Controllable” コントロール可能なコトをしっかりとコントロールします

リスクシナリオに対する今後の対応策

需要

- ・ マクロ経済の減退による需要数量に応じた生産体制
- ・ 中長期的な需要増を見据えた競争優位製品の能力拡大

コスト

- ・ 数量減少に対応する固定費の最適化
- ・ 品質コストの更なる改善
- ・ 自動化、省人化の徹底によるコスト構造改善
- ・ 生産拠点の見直しによる生産性向上

生産拠点

- ・ チャイナ＋アルファの推進（インド、東南アジア諸国等）

財務体質

- ・ リスクに備えつつ、成長投資・株主還元を継続する。

■ 織り込んでいないリスク

- ・ 計画の前提を超える自動車、スマホ等の生産台数減
- ・ 計画を上回る販売価格の下落、材料価格の高騰

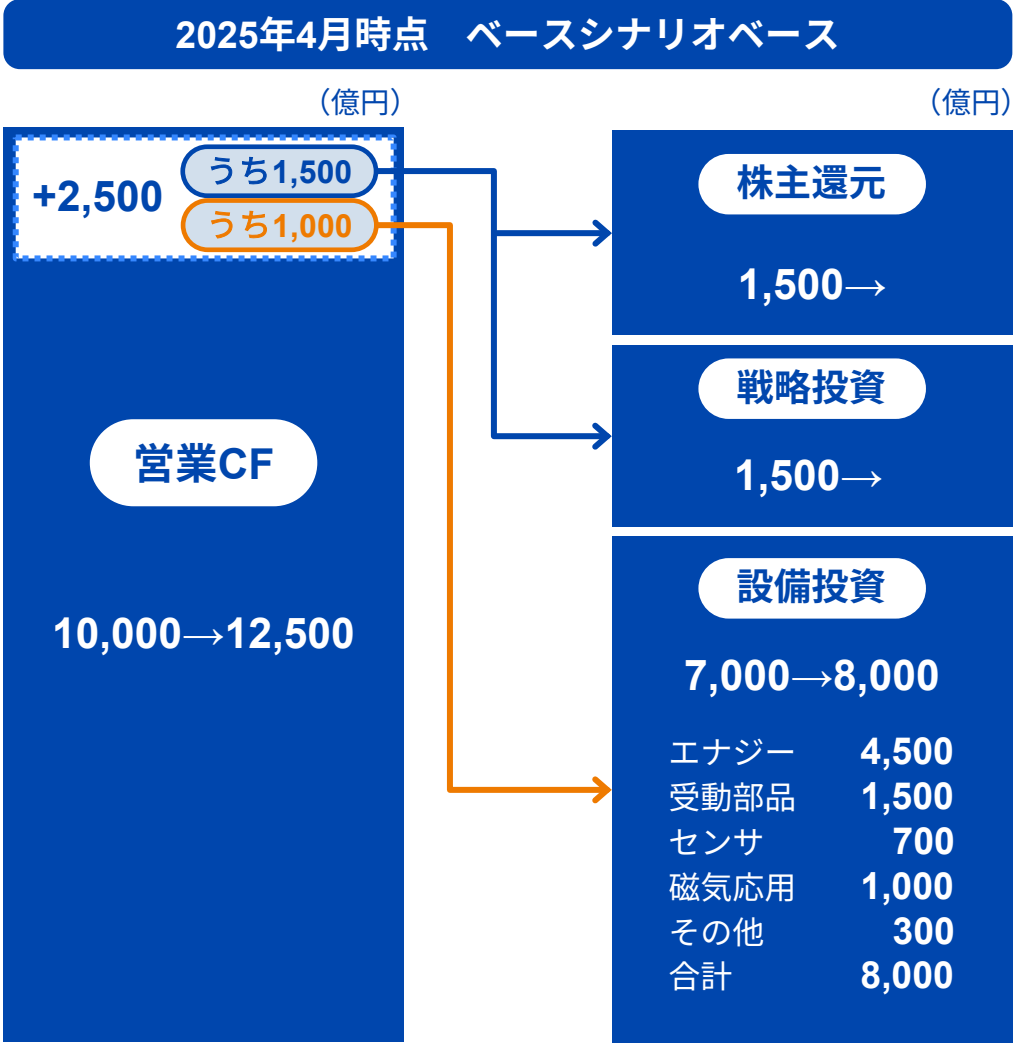
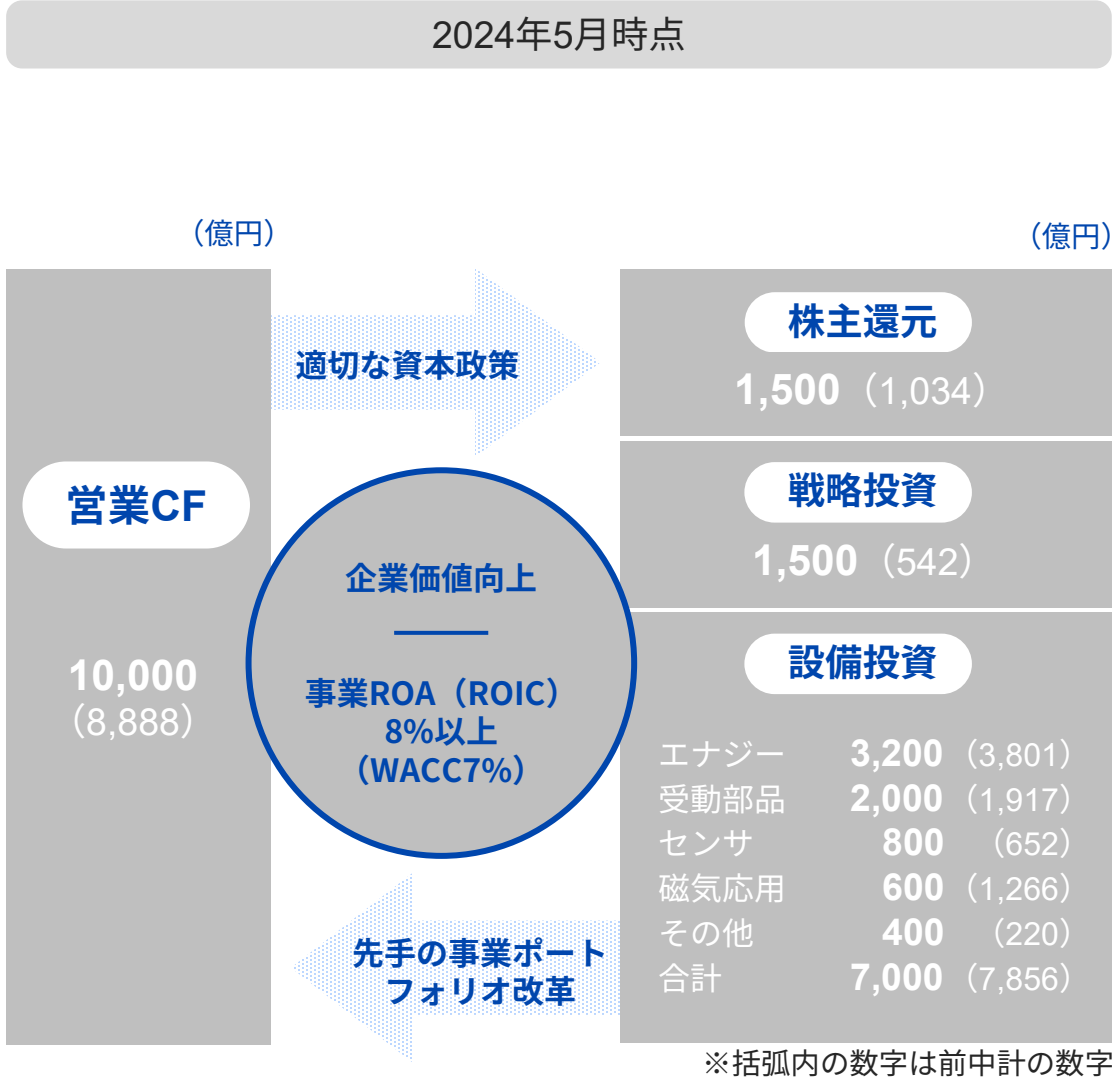
財務KPIの進捗

- 25年3月期は、期初目標値を達成。中計最終年度(27年3月期)の目標値に変更は無し。

		2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期	
				ベース	リスク	
成長性	売上高 [億円] (年率換算成長率)	21,039	22,048	22,000	21,200	25,000 (約5%)
	ROE	7.9%	9.5%	9.5%	7.9%	10%以上
効率性	ROIC (事業ROA) (>WACC)	5.3% (<7.0%)	6.7% (<7.0%)	7.1% (>7.0%)	5.6% (<7.0%)	8%以上
	営業利益率	8.2%	10.2%	10.2%	8.5%	11%以上
財務健全性	株主資本比率	50%	51%	51%	51%	50%水準
	D/Eレシオ	0.4倍	0.3倍	0.4倍	0.4倍	0.3~0.4倍
為替前提		144円/US\$	153円/US\$	140円/US\$	140円/US\$	135円/US\$

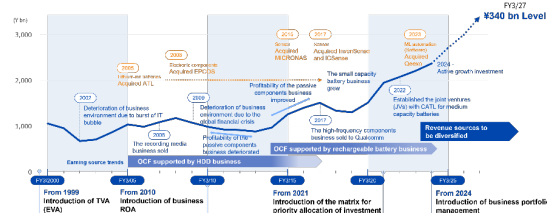
キャピタルアロケーション方針の変更 (FY25/3～FY27/3累計)

- 当初計画から上振れを見込む営業CFを設備投資に配分。市場環境を踏まえて、戦略投資と株主還元にも配分



「新中期経営計画のポイント」の進捗

1 キャッシュ・フロー経営の強化

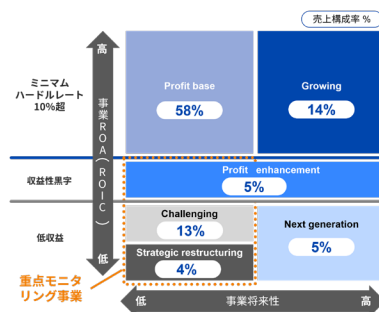


FCF重視経営の加速

- FY25/3通期のFCF実績

期初150億円から
2,010億円へ拡大

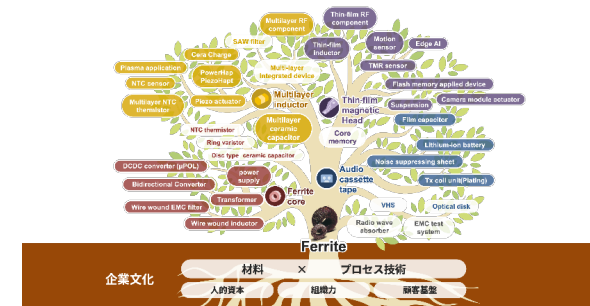
2 事業ポートフォリオマネジメントの強化 (ROIC経営の強化)



資本収益性改善へ向けて

- 詳細次ページ以降で説明

3 フェライトツリーの進化 (未財務資本の強化)



未財務資本強化に向けた継続的取り組み

人的資本の強化

- CHRO職設置による人的資本の強化
- エンゲージメント向上に向けた活動の推進

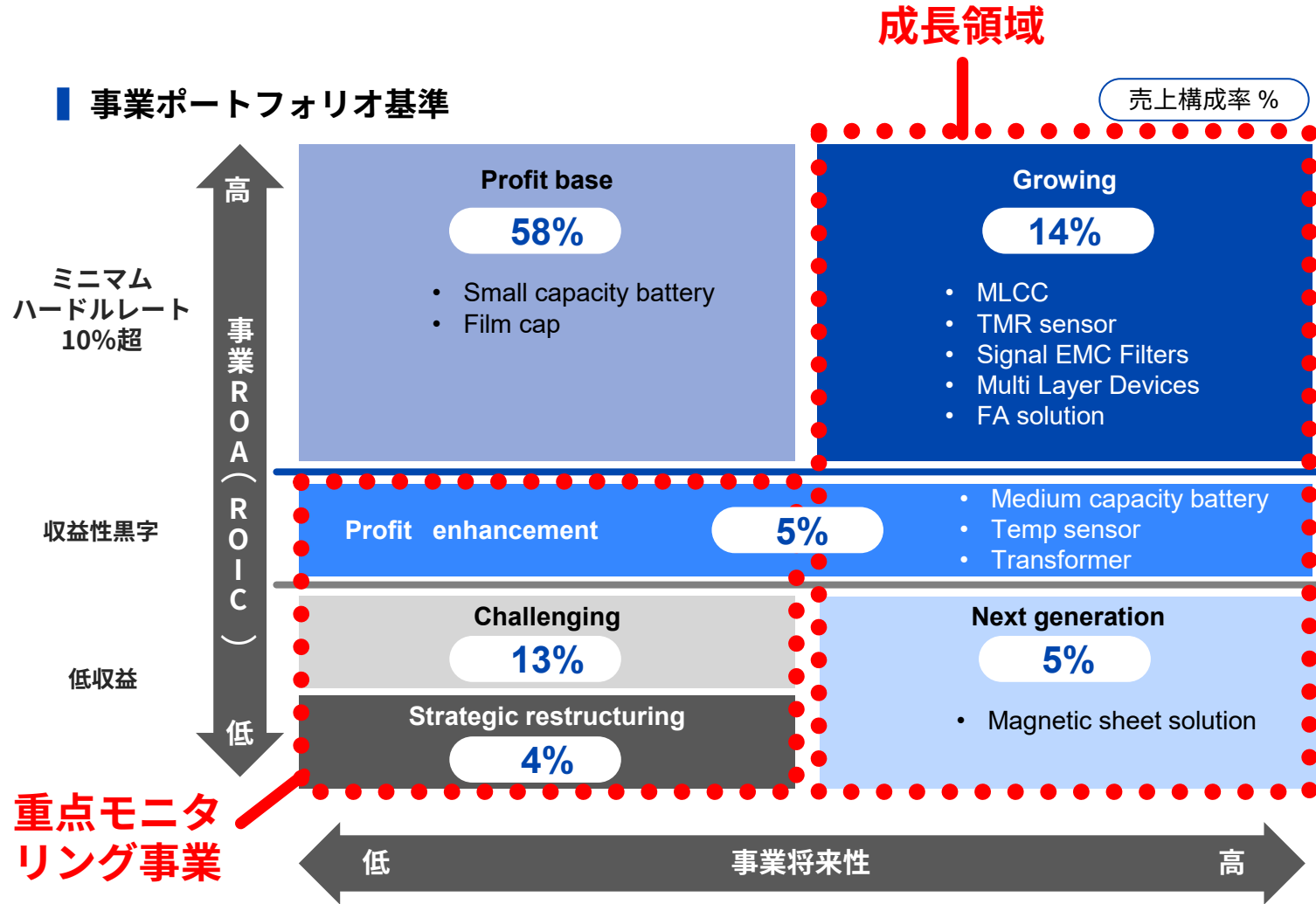
技術力の強化

- 全固体電池材料、ニューロモルフィックデバイス、スピントロニクス等技術開発の進展
- SensEI等ソフトウェアビジネスの強化

サステナビリティ活動やDXの取り組み強化

- SBTiによるSBT認定。FTSE 4.3を獲得
- EcoVadis社によるゴールド評価を獲得
- DX認定事業者として認定

事業ポートフォリオマネジメントを進めています

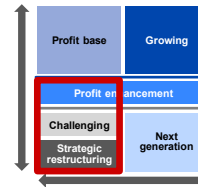


- これまでの投資配分の2軸マップから、事業ポートフォリオの2軸マップへ進化。
- ミニмумハードルレートを下回る事業に適切に対処し、成長領域への資本配分を優先。
- 左下の重点モニタリング事業のターンアラウンドと、AIを成長機会にとらえた事業将来性の高い成長領域への投資を進める。

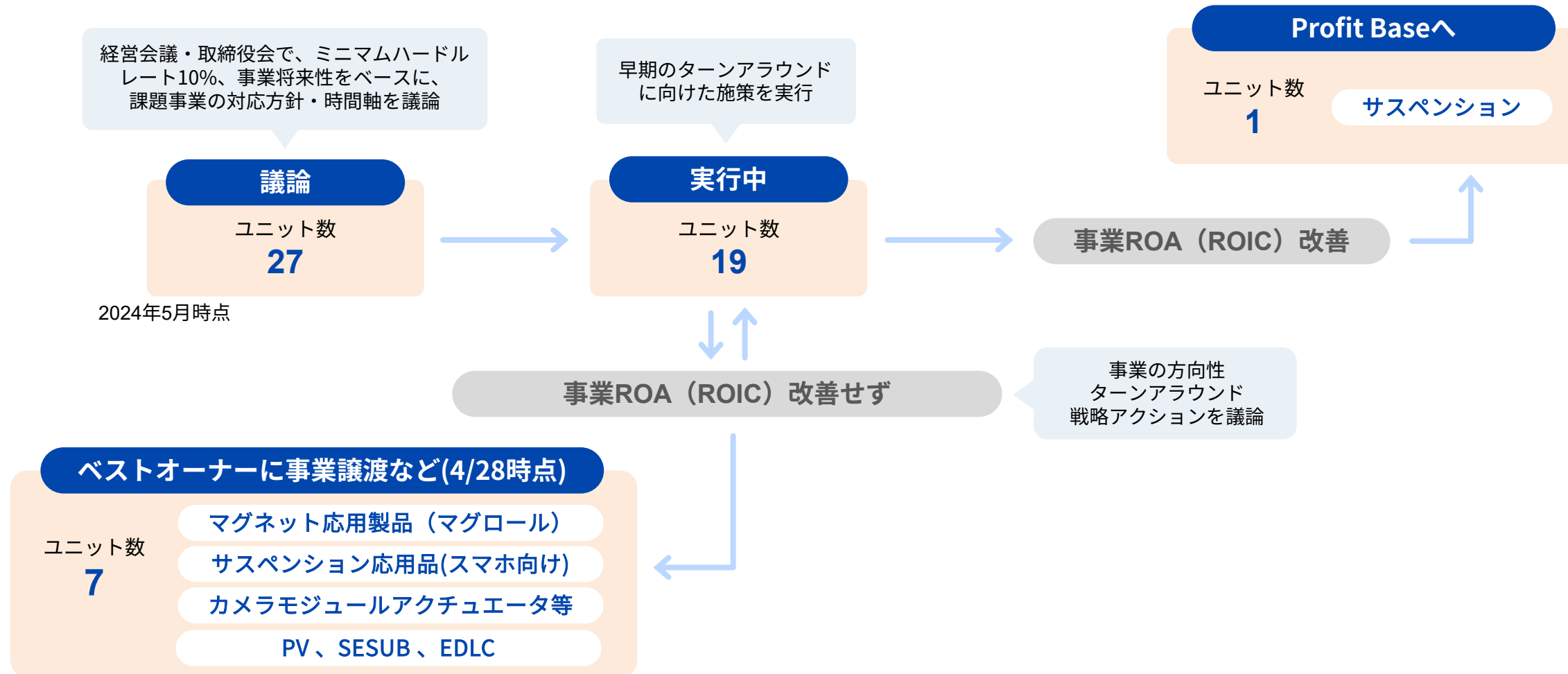
- 事業ROA (ROIC) = 税引後・全社費用配賦前の事業営業利益/事業資産
- 全社費用を織り込むため、ミニмумハードルレート10%は全社WACC7%から逆算

重点モニタリング事業の収益性改善を実行

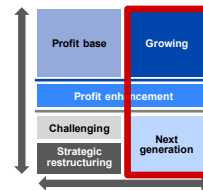
- 2024年5月Investor Day時点では、27CBUを重点モニタリング対象に選定
- そのうち1CBUは、Profit Baseへ、7CBUについて事業譲渡などを実施、19CBUは施策を実行中



先手の事業ポートフォリオマネジメントとその進捗



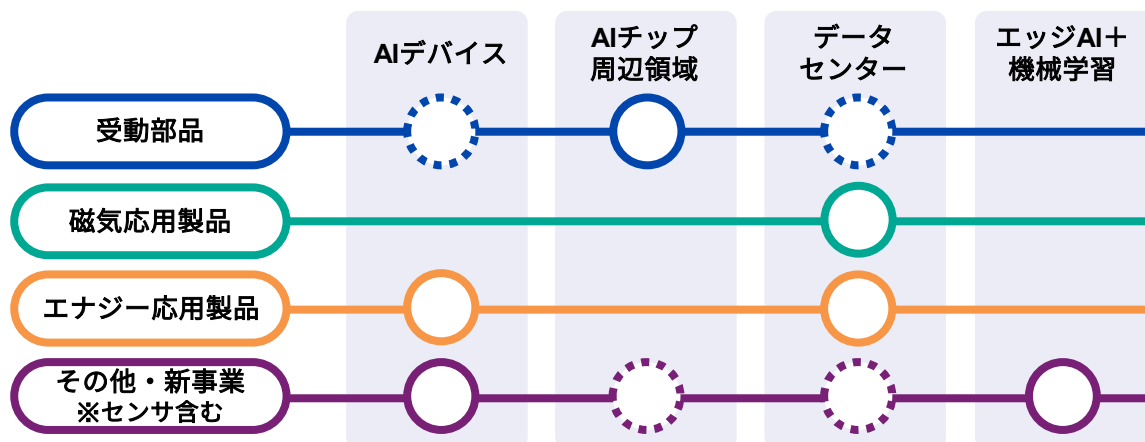
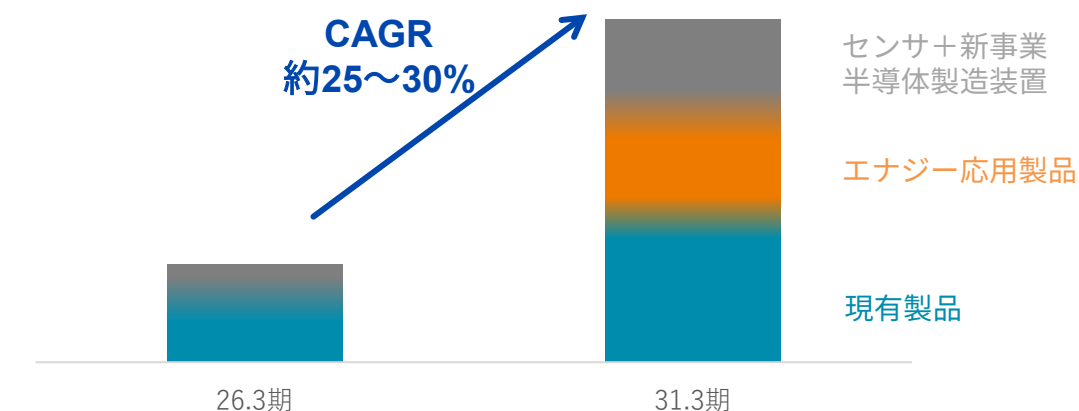
TDKは、AIエコシステム全体に貢献し続けます。



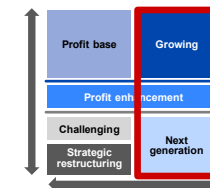
AIエコシステム全体に向けて売上を伸ばします。

- 成長が期待されるAIデータセンター、周辺部品のエコシステムの需要を確実に捉える
- ソフトウェアビジネス等のビジネスモデルのTransformationも遂行する

AI市場向け売上高（26.03予想・31.03目標）



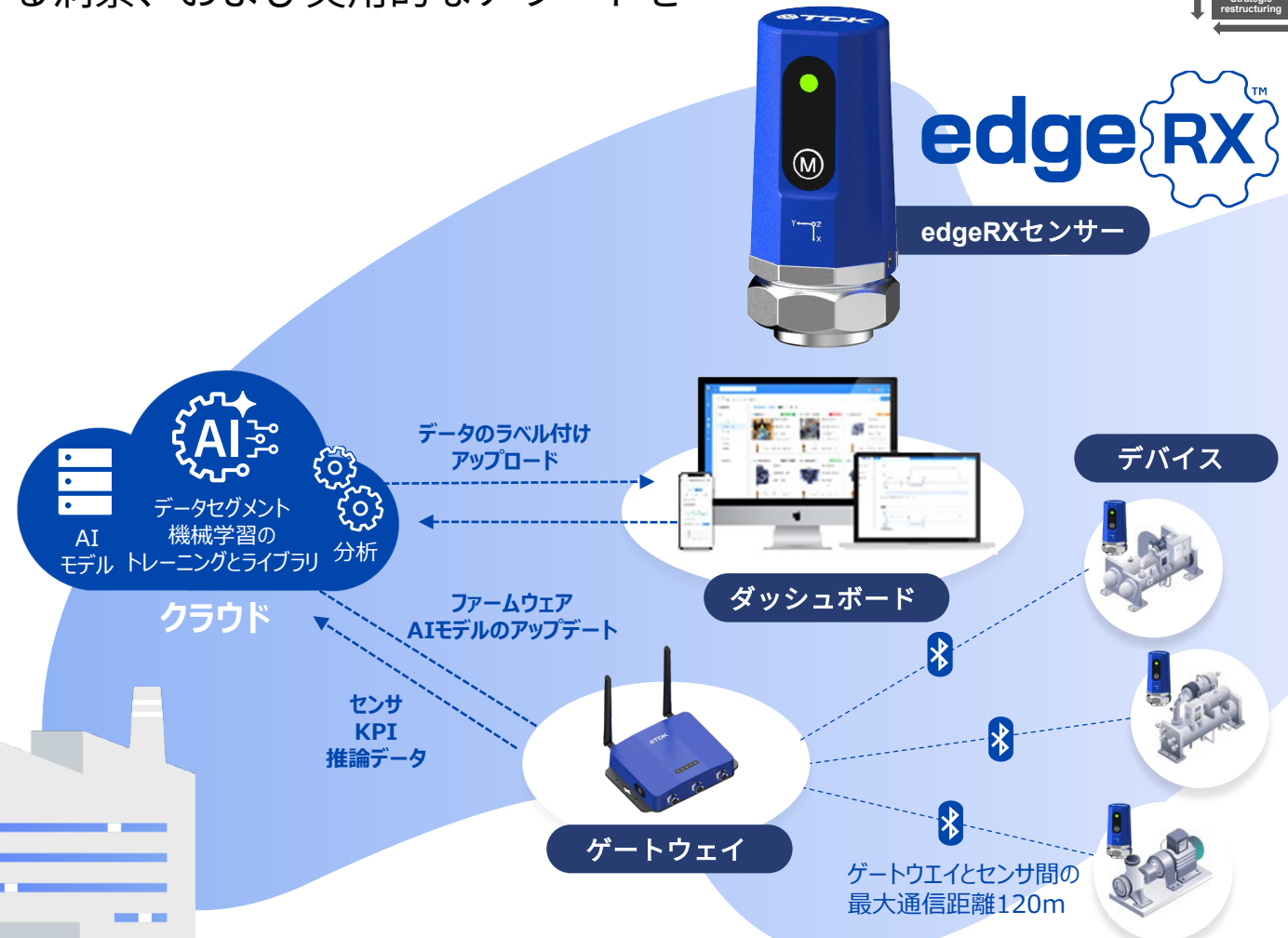
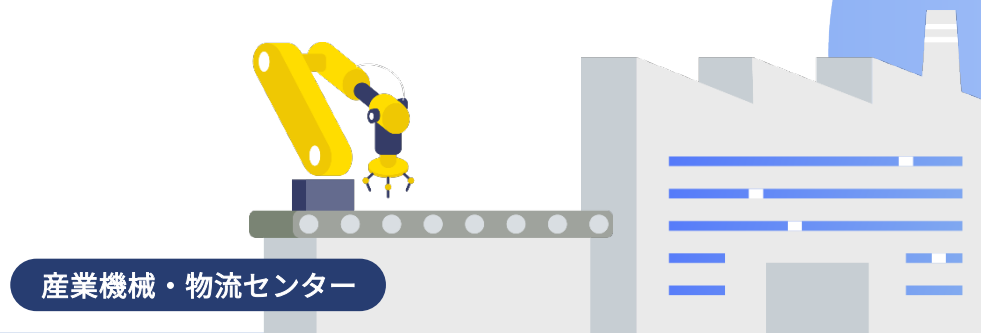
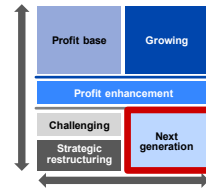
※注釈：実線円は、上記グラフ売上高集計値、点線円は、集計に含まれないが、売上実績あり



製品群		主な用途及び機能
現有製品	受動部品	<ul style="list-style-type: none"> 半導体高機能化への貢献、高速化・冗長設計への対応 パワーユニット系
	ヘッドサスペンション	<ul style="list-style-type: none"> データの信頼性確保、高記録密度化への貢献、低消費電力
中型二次電池		<ul style="list-style-type: none"> データセンター電力の冗長性確保 Battery Backup Unitの小型化
半導体製造装置		<ul style="list-style-type: none"> 半導体製造プロセス革新への貢献 ロードポート等の強化、材料+製造技術の強化
センサ+新事業		<ul style="list-style-type: none"> AIを活用したセンサ+α付加価値の提供 SensEi等のソフトウェアビジネスの展開

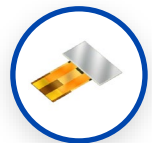
産業機械における予知保全への貢献

最先端のAI およびエッジ コンピューティング テクノロジーを使用して設計されたedgeRX は、リアルタイムのモニタリング、予知保全に関する洞察、および実用的なアラートを監視設備から直接提供



AR デバイスへの貢献

- スマートグラスの普及には、小型でスタイリッシュなデバイスでの機能実現がキー
- スタイリッシュなスマートグラス実現に向けて、TDKは超小型、低消費電力製品の開発に集中



振動させて
音を出す



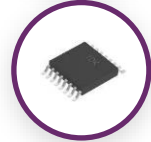
透明な
アンテナ



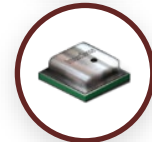
電気を蓄える



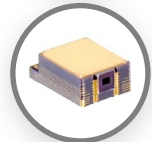
動きを測る



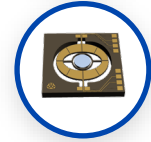
角度を測る



正確な音声認識

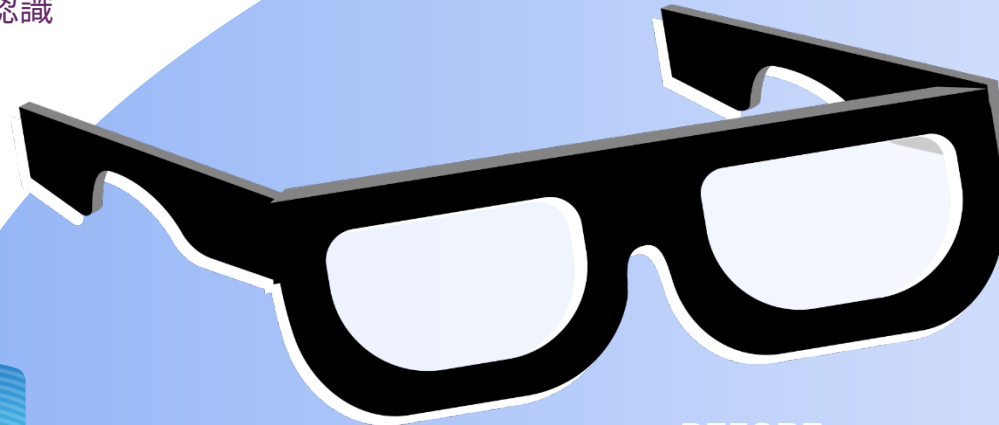


画像の投影

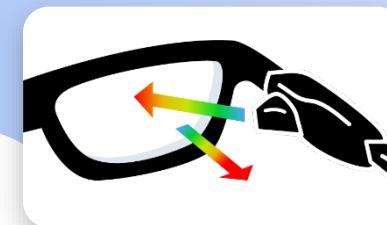


イメージ生成

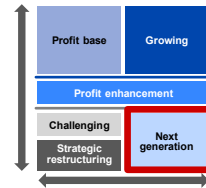
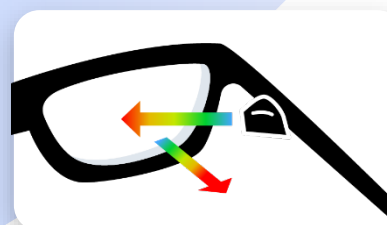
ARグラス



BEFORE



AFTER

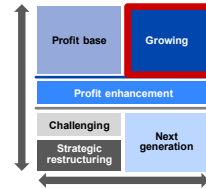


半導体製造装置への貢献

- 2.5D/3Dアドバンスパッケージにおいては、「後工程」での技術革新が要求される。
- 製造技術と材料技術を組合わせ、「後工程」においてもさらなる貢献を目指します。



モノづくりを
支える



デバイス構造の複雑化

微細化・多積層化

製造プロセスの高度化

処理面、加工面の
コントロールが重要
(変質・コンタミ抑制)

チップレット化 PLPプロセス適用増

WLP (φ300mm) から
PLP (□600mm) へ

複数の異種異形チップ (ダイ) のボンディング

種々サイズのチップ
(特に大型・薄型) の
高精度搭載・接合が重要

製造工程のTransformation

前工程

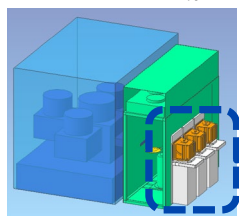
薄膜形成 → 露光・現像 → エッチング → 研磨 → 平坦化

後工程

ダイボンディング → モールディング → バンプ形成 → 個片化

TDKのTransformation

プロセス装置



EFEM

ロードポート



FOUP

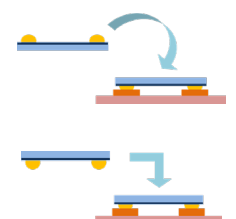


Si Wafer
FOUP内雰囲気
コントロール

PLPロードポート

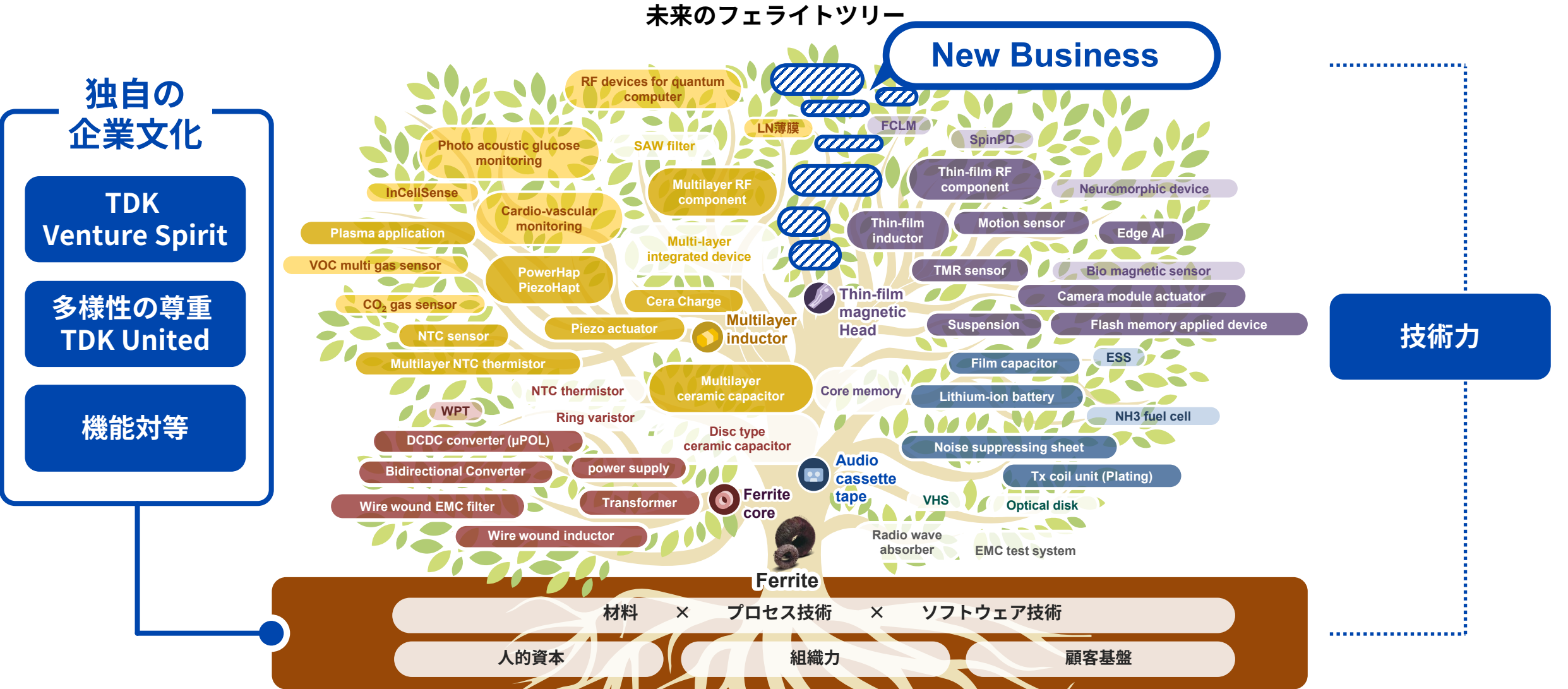


ボンディングシステム



価値創造を支える未財務資本

- TDKは、AIエコシステム全体に貢献し続けます。



社長としての私のコミットメント (2024年5月Investor Day資料 再掲)

Attracting Tomorrow



- 10年後のありたい姿（長期ビジョン）を策定しました。10年後のありたい姿からバックキャストし、企業価値を向上させます。
- 材料×プロセス×ソフトウェア技術でお客様のNo.1パートナーとなり、社会のサステナブルな未来のために社会の変革を加速させます。
- 事業ポートフォリオマネジメントを強化し、ROIC・WACCスプレッドを高め、キャッシュ・フロー拡大と資本効率を改善させ、財務資本を高める経営を強化します。
- フェライトツリーを進化させ、将来キャッシュ・フローの源泉である未財務資本を高める経営を強化します。
- 投資家の皆さまとの対話・IRを強化します。

補足資料

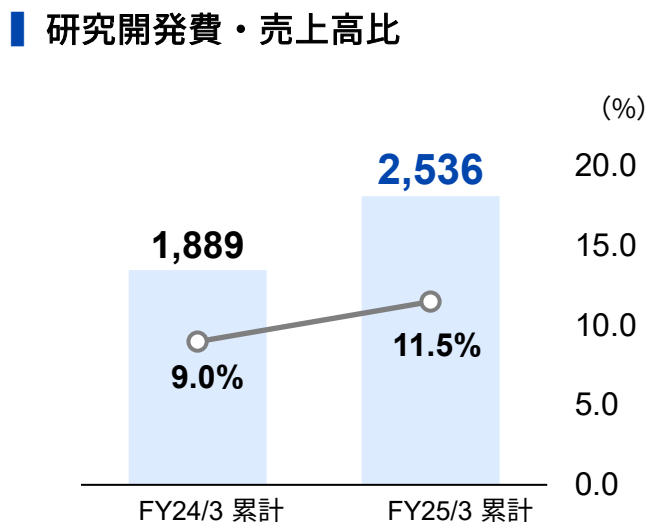
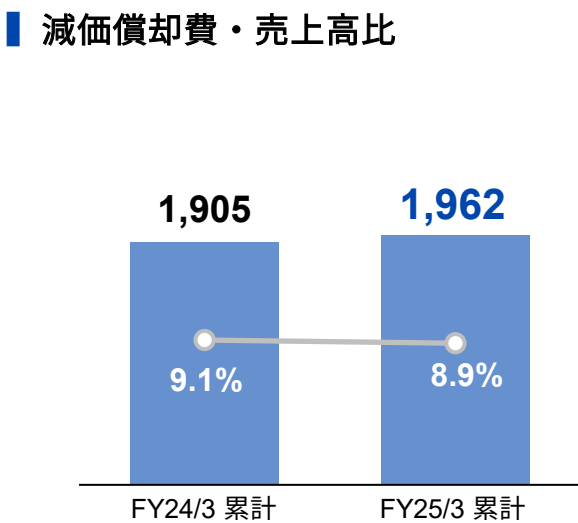
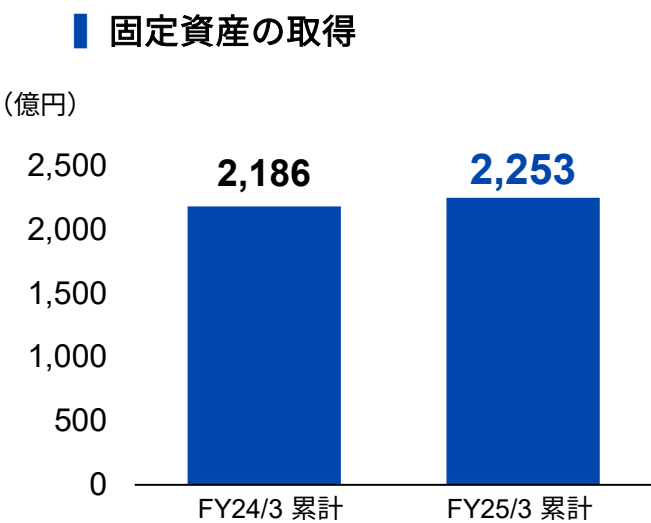
売上高・営業利益四半期推移 (2024年3月期 - 2025年3月期)

(億円)		2024年3月期					2025年3月期				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
売上高	コンデンサ	625	626	594	605	2,450	615	580	575	572	2,343
	インダクティブデバイス	475	506	507	483	1,971	508	527	518	490	2,043
	その他受動部品	307	322	309	297	1,235	307	312	303	289	1,211
	受動部品	1,407	1,454	1,410	1,385	5,656	1,431	1,419	1,396	1,351	5,596
	センサ応用製品	388	473	492	452	1,805	441	508	481	465	1,895
	磁気応用製品	382	448	493	519	1,842	550	559	545	582	2,236
	エネルギー応用製品	2,749	3,040	3,045	2,382	11,217	2,629	3,091	3,240	2,806	11,765
	その他	107	148	152	111	518	137	130	149	139	556
合計		5,034	5,563	5,593	4,849	21,039	5,188	5,707	5,810	5,343	22,048
営業利益	受動部品	141	175	185	37	539	139	150	120	△68	341
	センサ応用製品	6	44	47	△37	60	△7	38	22	△4	50
	磁気応用製品	△97	△94	△72	△93	△356	8	10	23	△7	34
	エネルギー応用製品	322	575	656	404	1,957	553	680	733	378	2,344
	その他	△12	7	5	△17	△18	△1	△12	△9	△23	△44
	小計	361	707	821	293	2,182	692	867	889	276	2,724
	調整	△98	△114	△119	△122	△453	△113	△113	△131	△125	△483
	合計	263	592	702	171	1,729	579	754	758	151	2,242
営業利益率		5.2%	10.6%	12.6%	3.5%	8.2%	11.2%	13.2%	13.0%	2.8%	10.2%
対ドル為替レート (円)		137.18	144.44	147.95	148.31	144.48	155.82	149.74	152.29	152.82	152.66
対ユーロ為替レート (円)		149.37	157.17	159.04	161.16	156.69	167.79	164.30	162.64	160.69	163.86

(注) 当第1四半期における組織変更により、従来「受動部品」のその他受動部品に属していた一部製品を「受動部品」のインダクティブデバイスに区分変更しております。これに伴い、前連結会計年度の数値についても変更後の区分に組替えております。

2025年3月期 各種費用

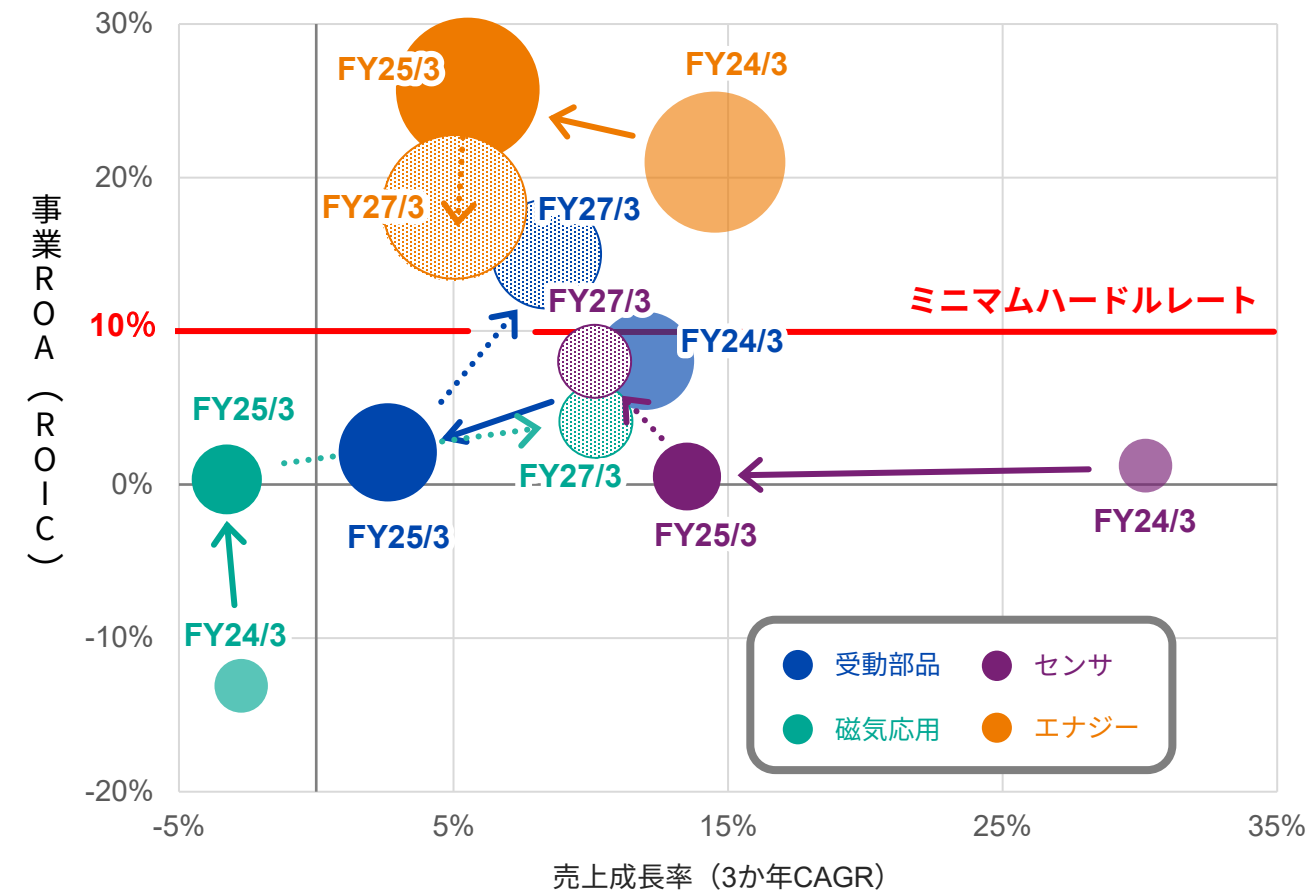
(億円)	2024年3月期 通期実績	2025年3月期 通期実績	増減
固定資産の取得	2,186	2,253	+67
減価償却費及び償却費	1,905	1,962	+57
売上高比	9.1%	8.9%	-0.2pt
研究開発費	1,889	2,536	+647
売上高比	9.0%	11.5%	+2.5pt



セグメント別ROICの進捗

- 収益性・資本効率の高い事業を強化し、営業利益率・事業ROA（ROIC）の向上を目指します。

各セグメントの成長性・資本効率向上の方向性

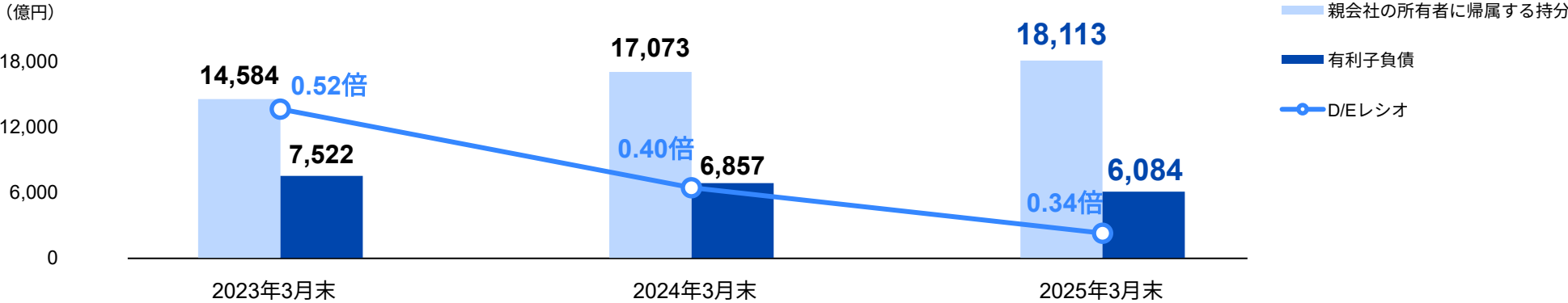


事業別売上高・事業ROA (ROIC)

(億円)	24.03実績	25.03実績	27.03目標
売上高 (CAGR)	21,039	22,048	25,000(5%)
受動部品	5,656	5,596	CAGR 5-8%
センサ	1,805	1,895	CAGR 8-11%
磁気応用	1,842	2,236	CAGR 8-11%
エナジー	11,217	11,765	CAGR 2-5%
営業利益率	8.2%	10.2%	11.0%
事業ROA (ROIC)	5.3%	6.7%	8.0%
受動部品	7.7%	3.3%	15.0%
センサ	1.2%	0.2%	8.0%
磁気応用	-12.2%	1.0%	4.0%
エナジー	21.5%	27.3%	18.0%

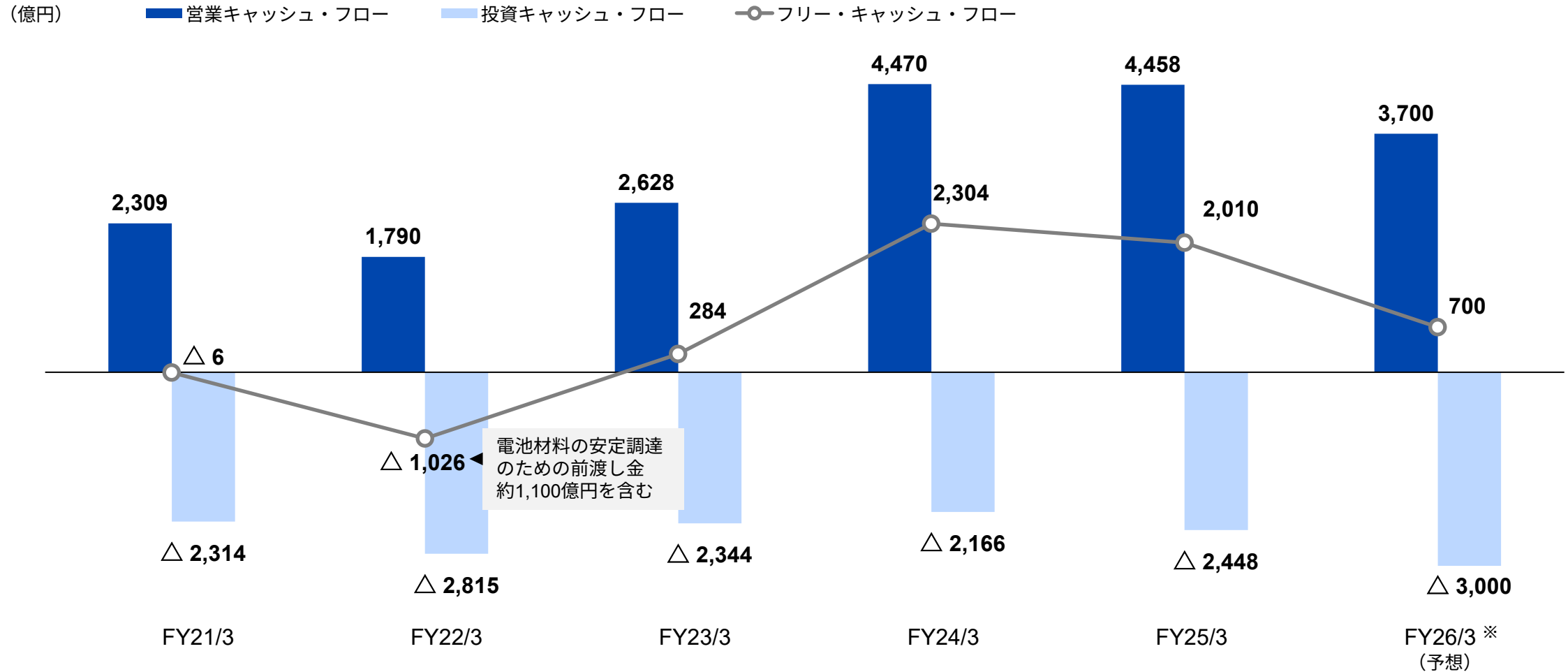
(億円)	2023年3月末	2024年3月末	2025年3月末	前期末差
資産合計	31,470	34,153	35,414	+1,261
負債合計	16,842	17,004	17,302	+298
親会社の所有者に帰属する持分	14,584	17,073	18,113	+1,039
親会社所有者帰属持分比率	46.3%	50.0%	51.1%	+1.2pt
現預金・短期投資・有価証券	5,224	6,661	7,538	+877
有利子負債 ※1	7,522	6,857	6,084	△773
ネットキャッシュ（デット） ※2	△2,297	△196	1,454	+1,650
D/Eレシオ（倍） ※3	0.52	0.40	0.34	△0.06

■ 親会社の所有者に帰属する持分・有利子負債・D/Eレシオ



※1: 借入金 + 社債 + リース負債、※2: 現預金 + 短期投資 + 有価証券 - 有利子負債、※3: 有利子負債 ÷ 親会社の所有者に帰属する持分

2026年3月期 キャッシュ・フロー見通し

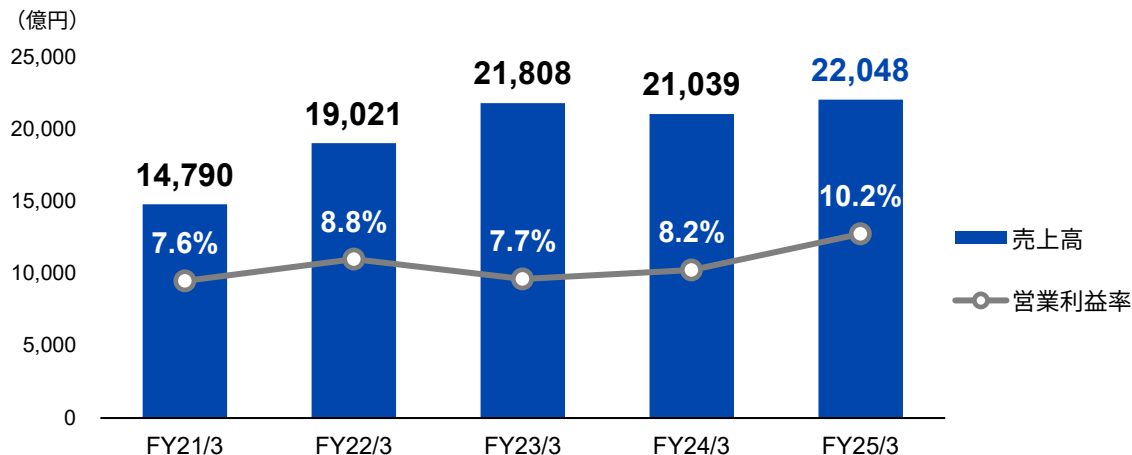


※ リスクシナリオでは営業キャッシュ・フロー3,300億円、投資キャッシュ・フロー2,950億円、フリー・キャッシュ・フロー350億円の見込み

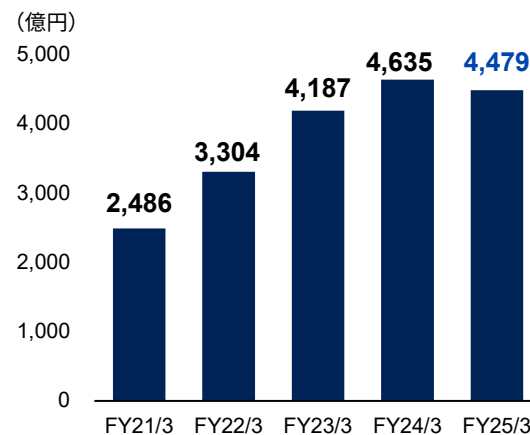
市場別通期売上高推移 (2021年3月期－2025年3月期)

全社

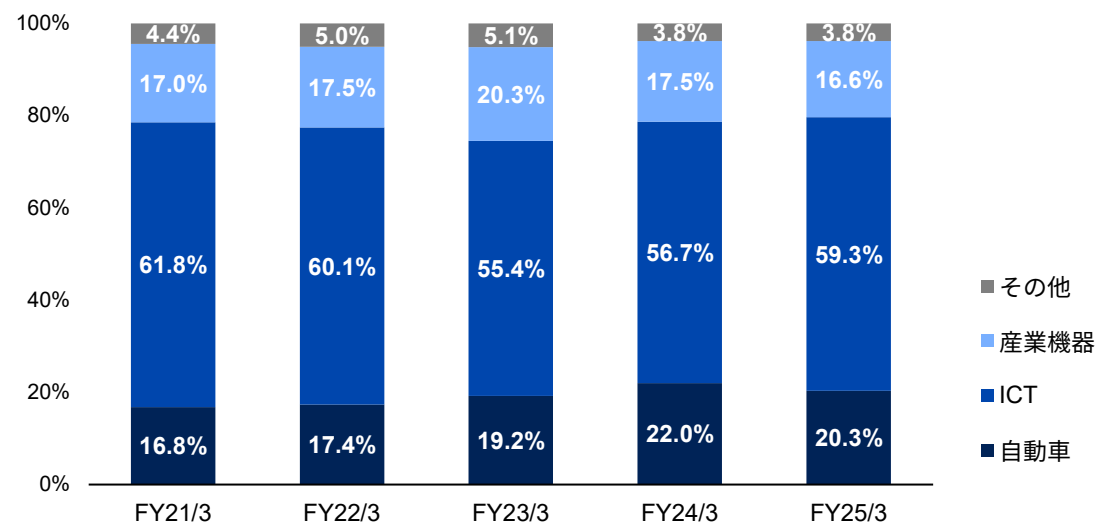
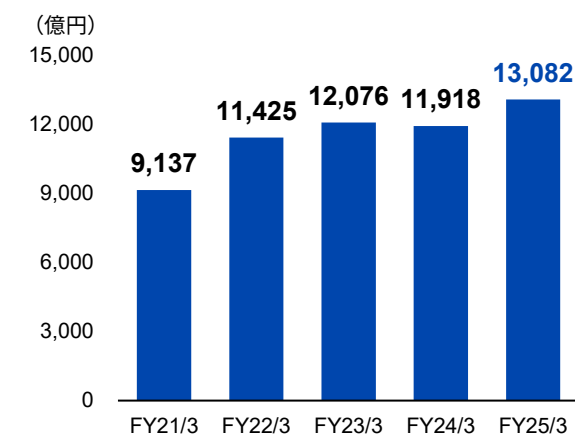
売上高・営業利益率



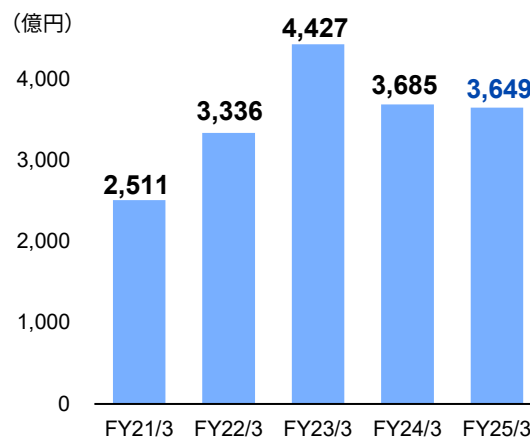
自動車



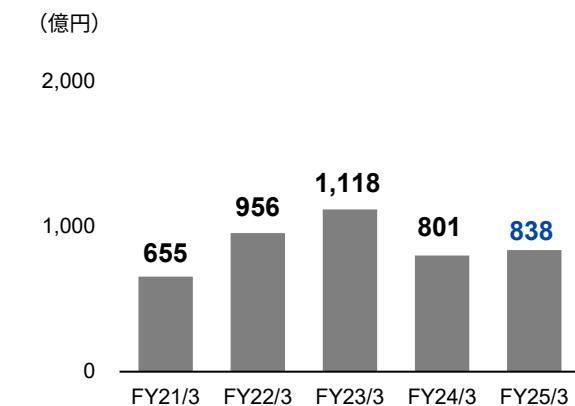
ICT



産業機器



その他



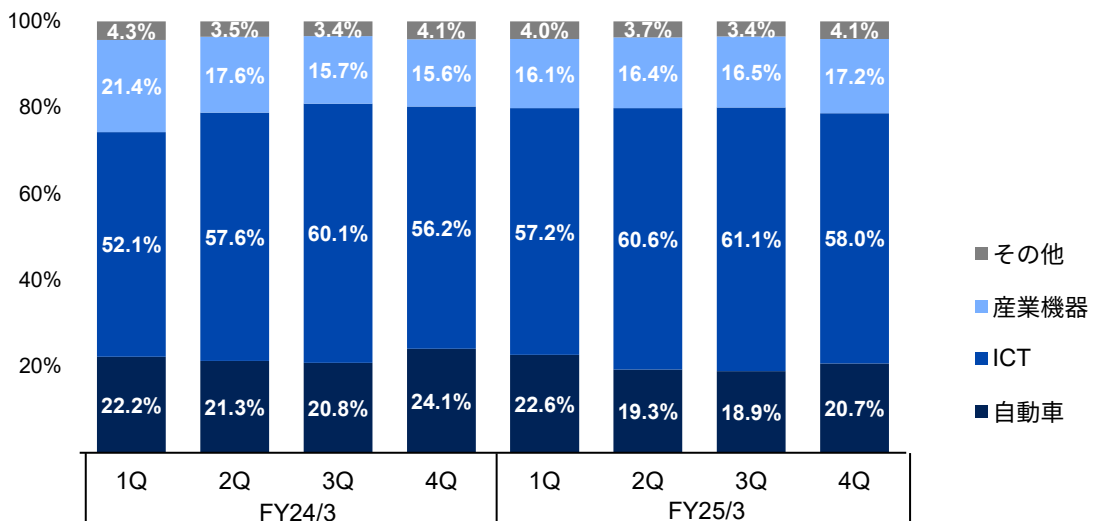
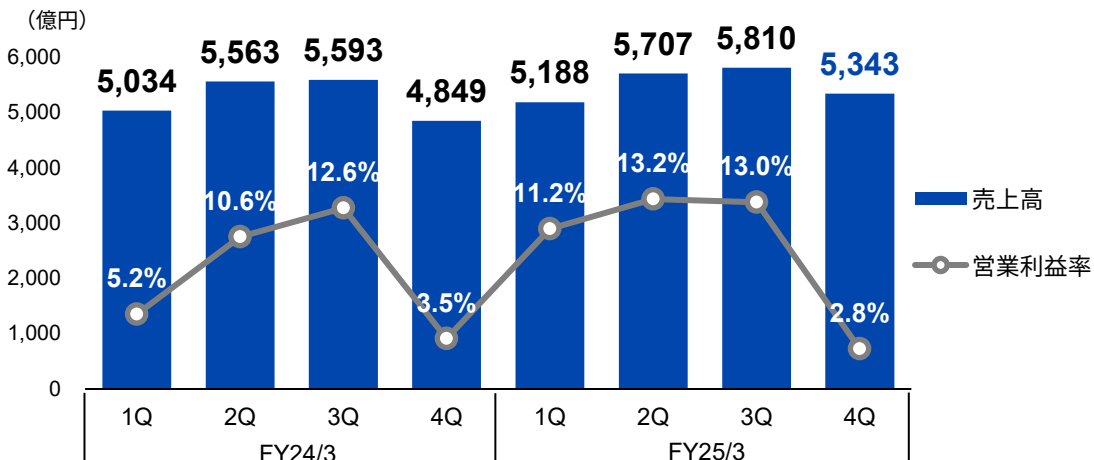
市場別四半期売上高推移 (2024年3月期－2025年3月期)

全社

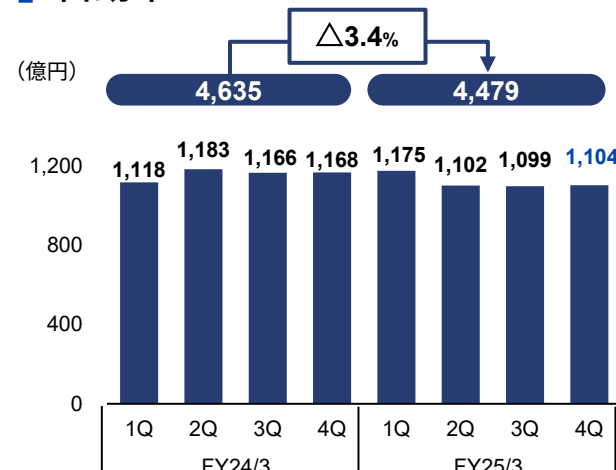
Attracting Tomorrow



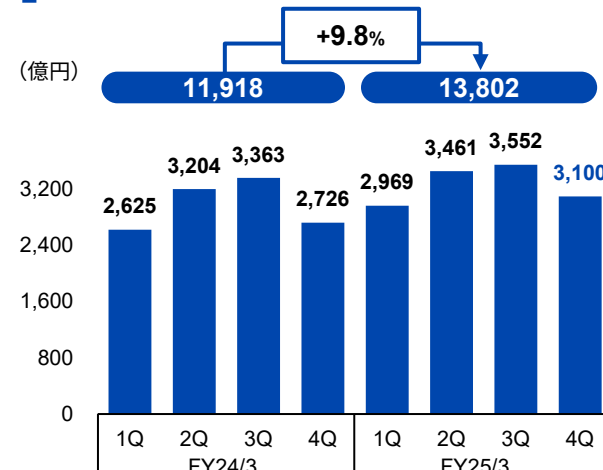
売上高・営業利益率



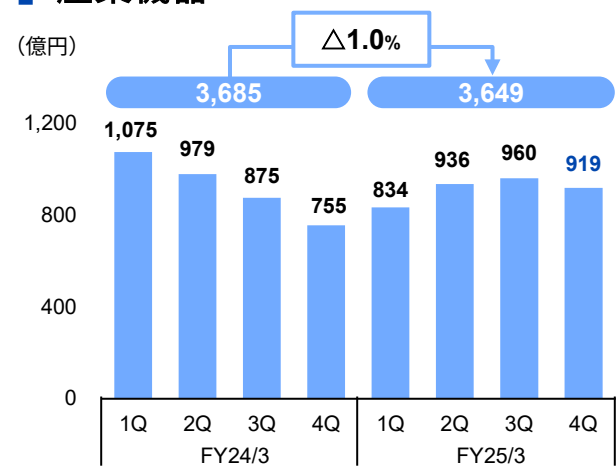
自動車



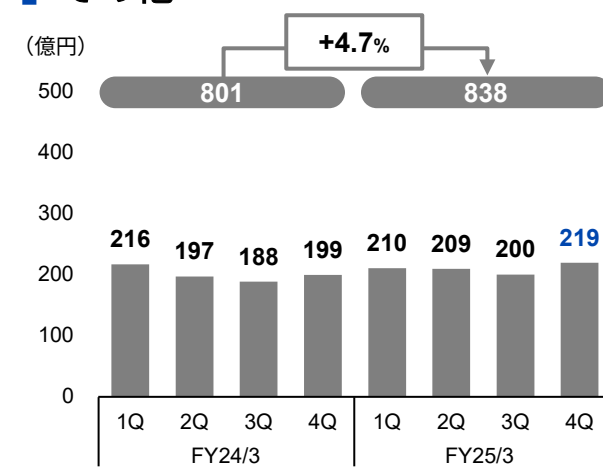
ICT



産業機器



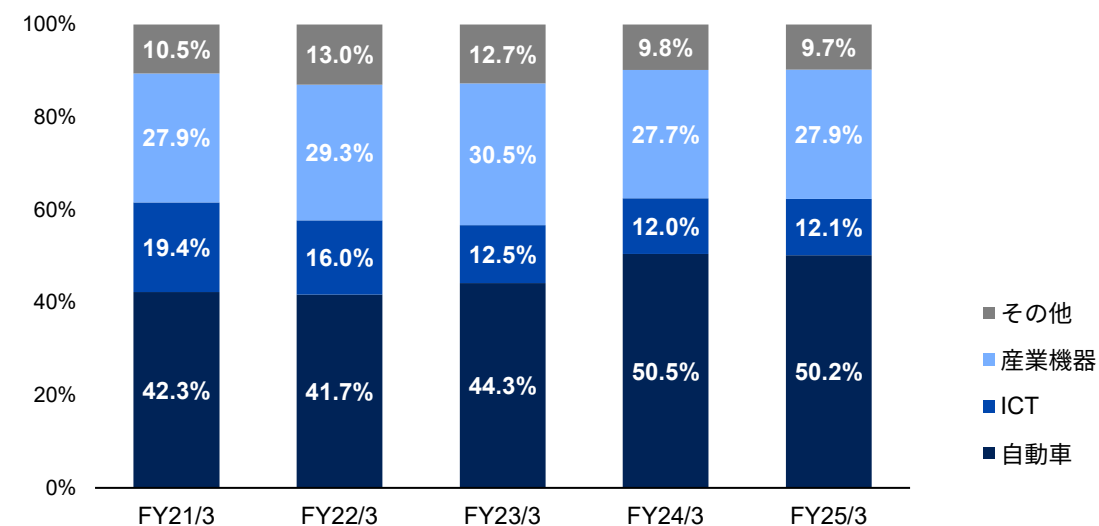
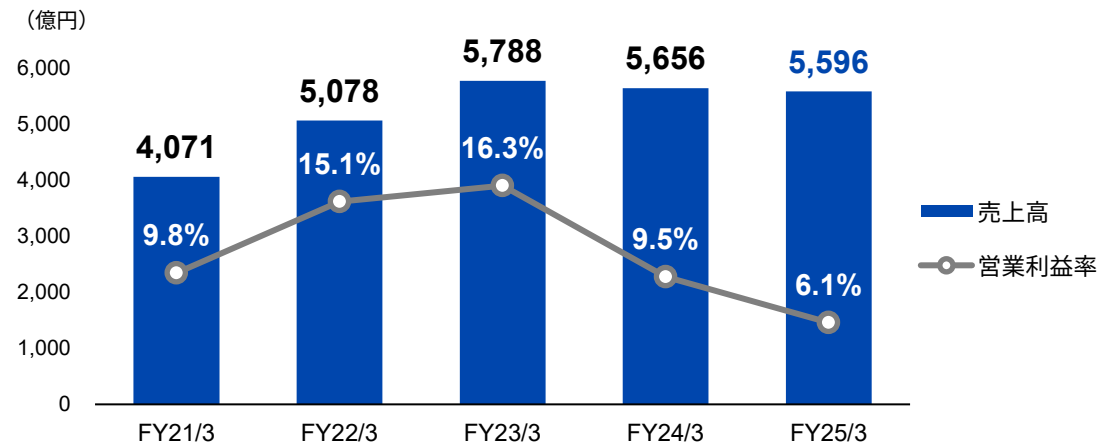
その他



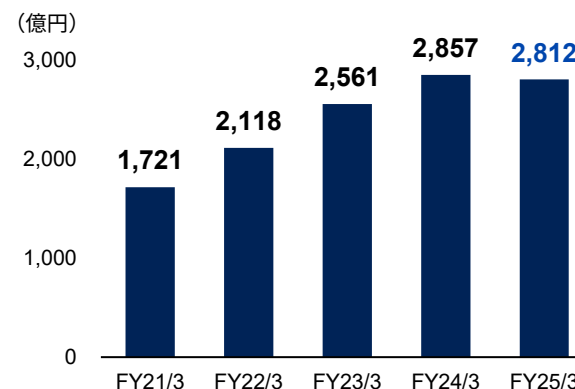
市場別通期売上高推移 (2021年3月期－2025年3月期)

受動部品

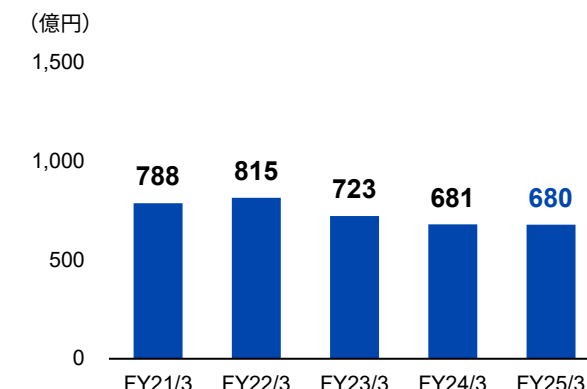
売上高・営業利益率



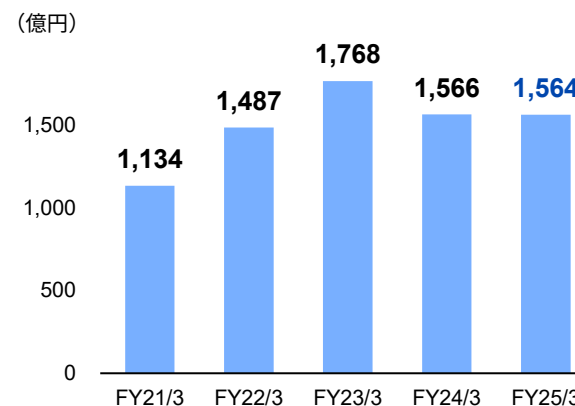
自動車



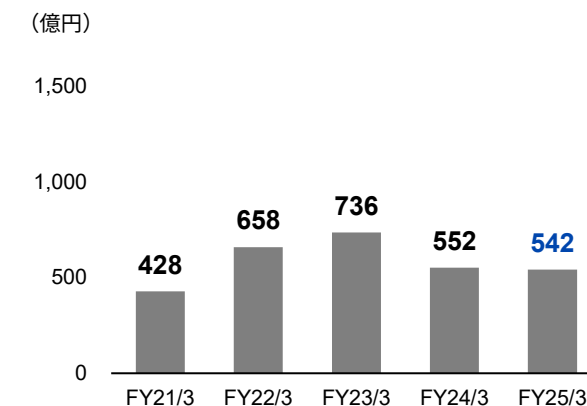
ICT



産業機器



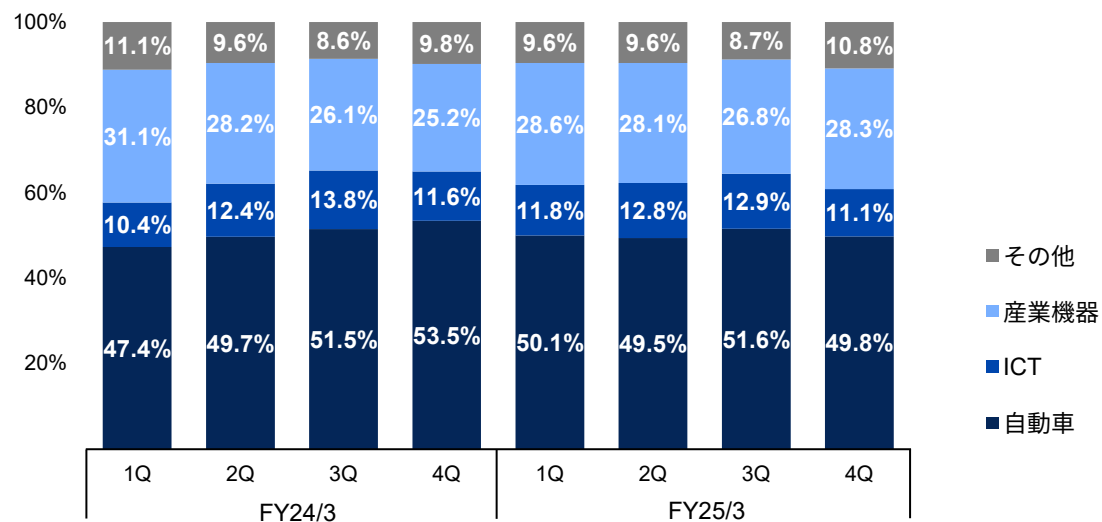
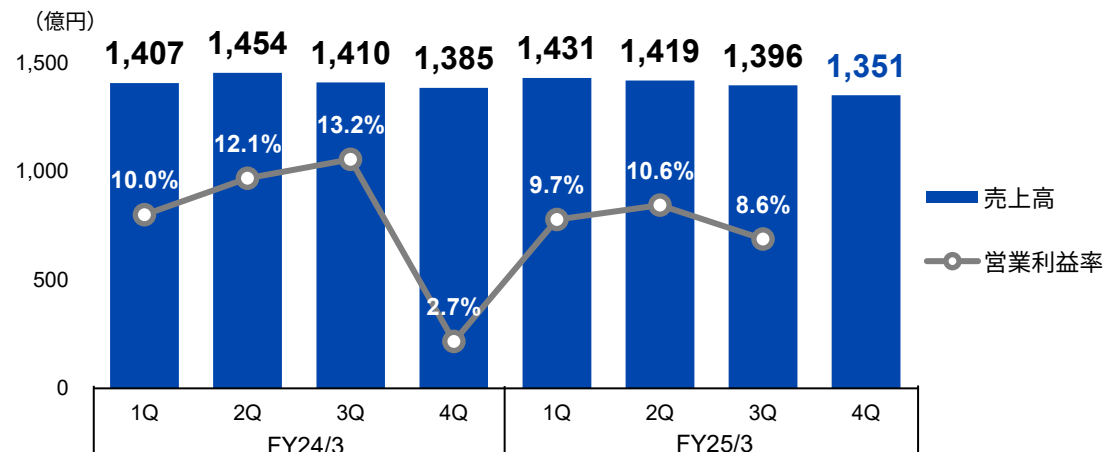
その他



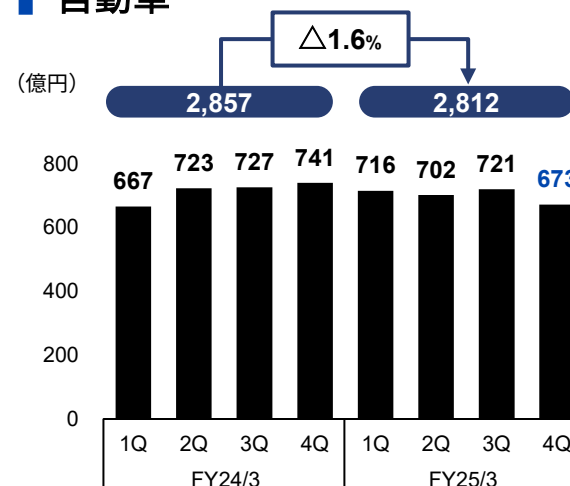
市場別四半期売上高推移 (2024年3月期－2025年3月期)

受動部品

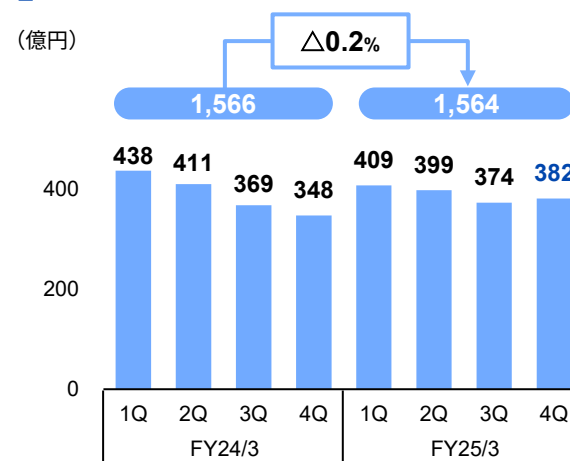
売上高・営業利益率



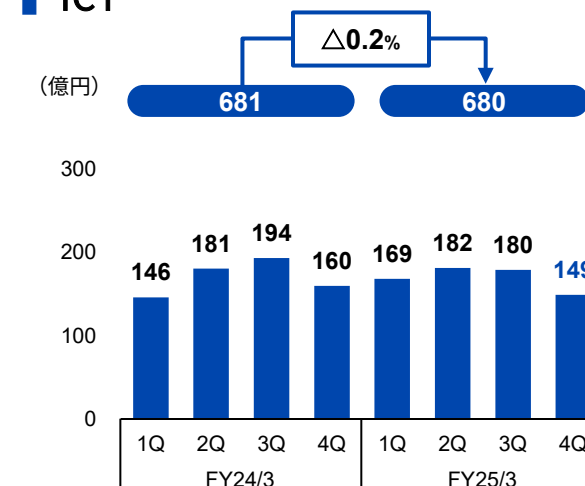
自動車



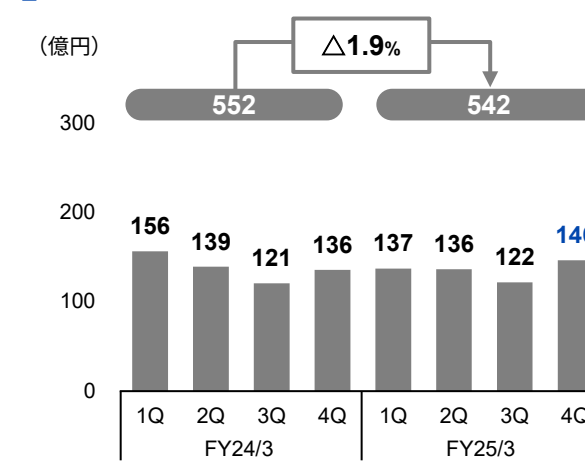
産業機器



ICT



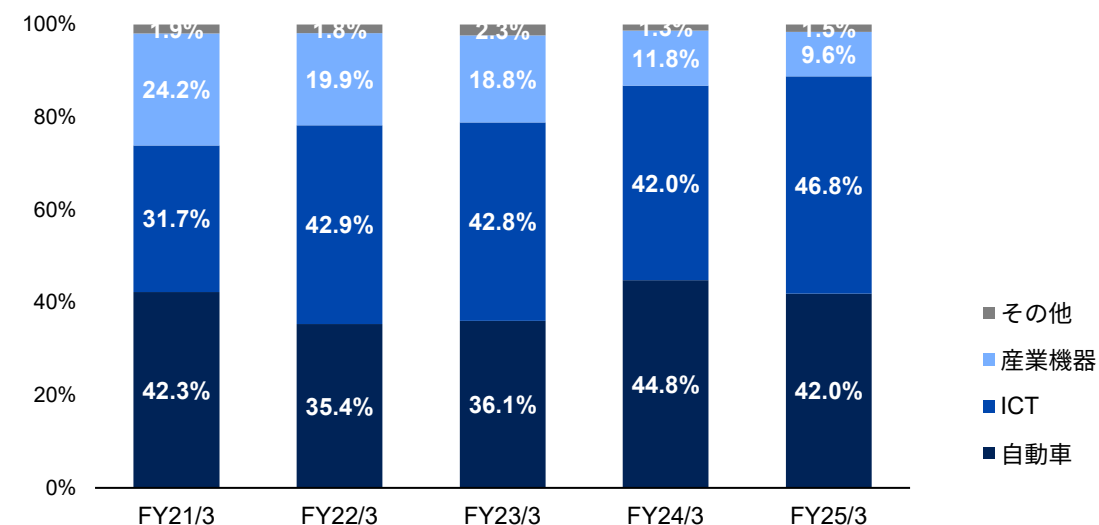
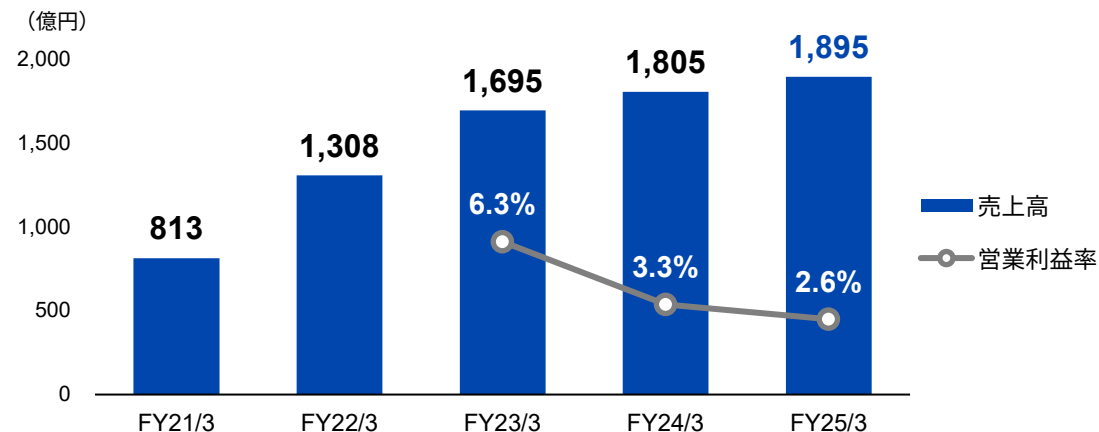
その他



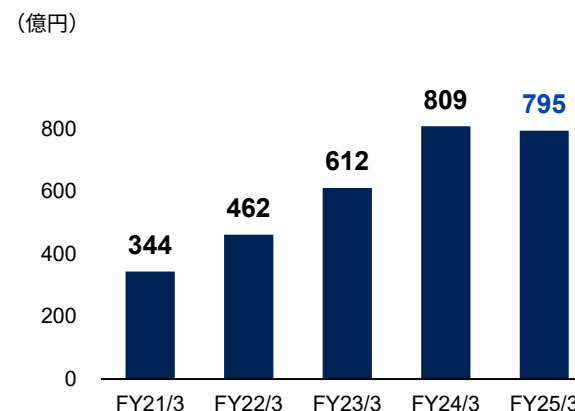
市場別通期売上高推移 (2021年3月期－2025年3月期)

センサ応用製品

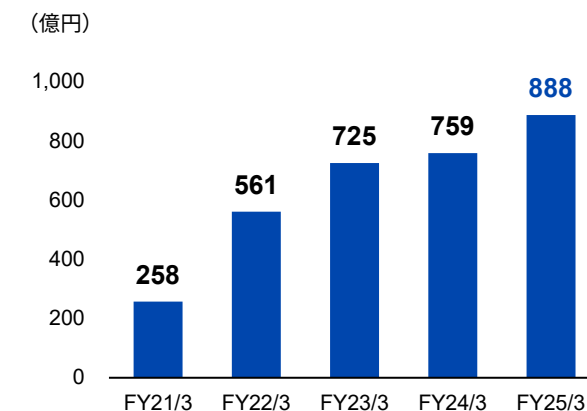
売上高・営業利益率



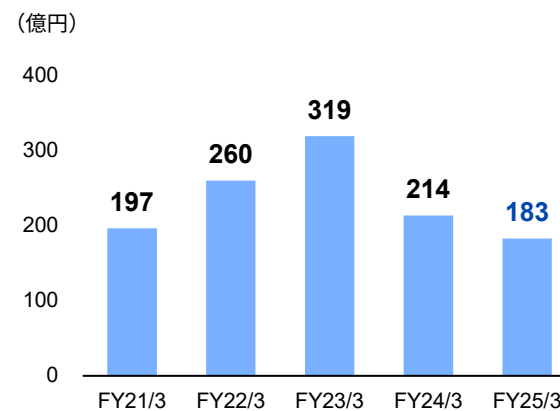
自動車



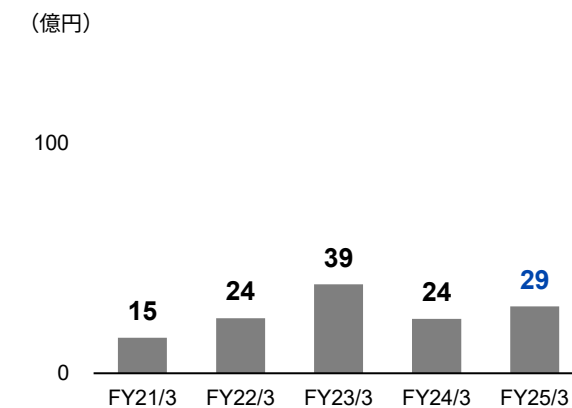
ICT



産業機器



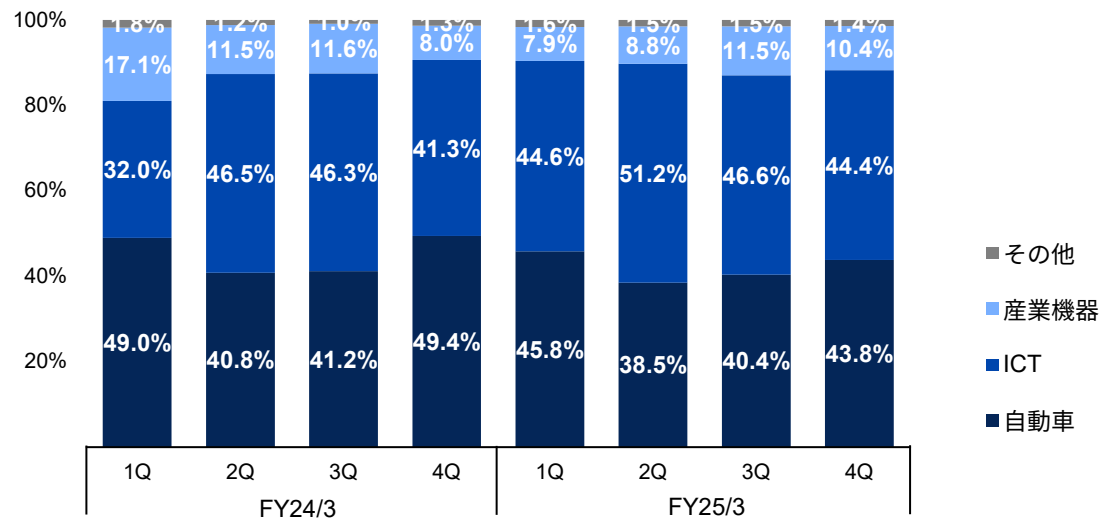
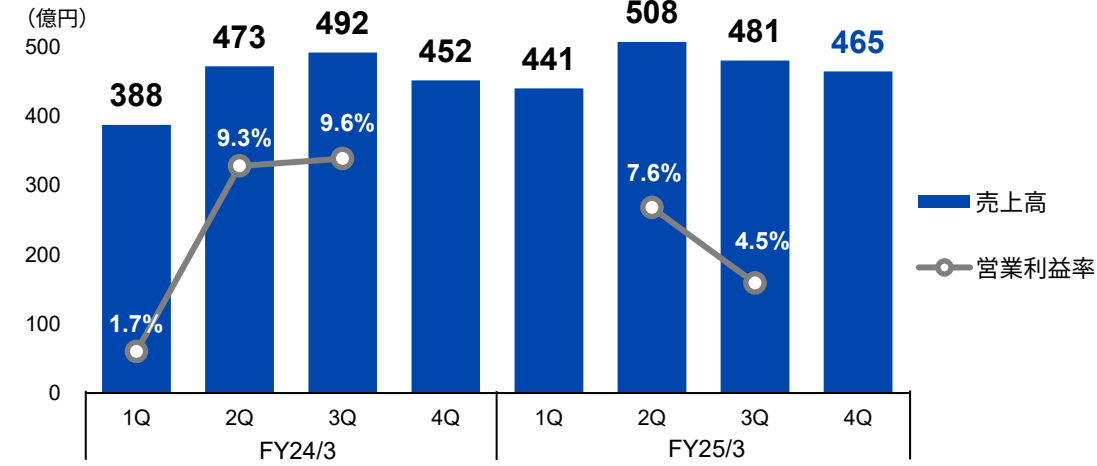
その他



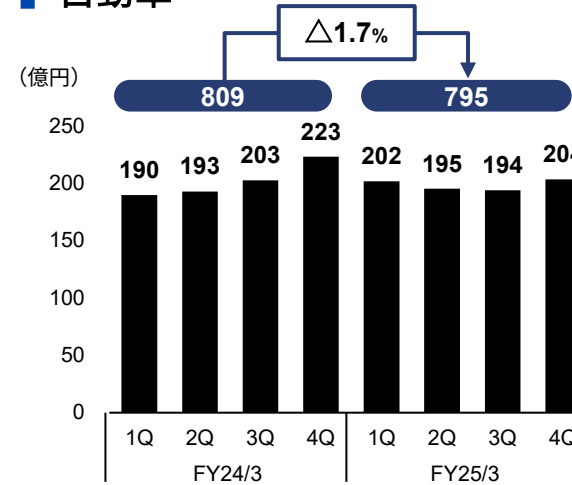
市場別四半期売上高推移 (2024年3月期－2025年3月期)

センサ応用製品

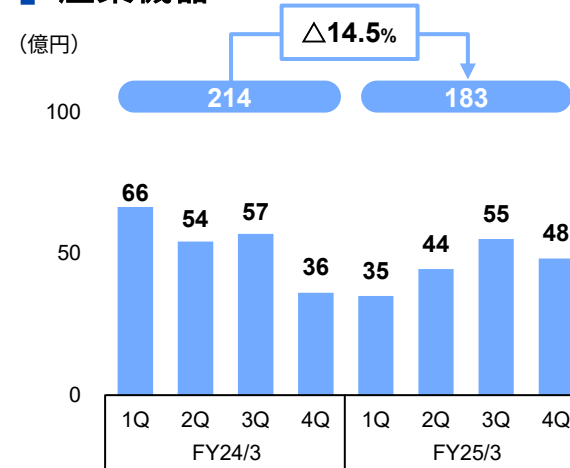
売上高・営業利益率



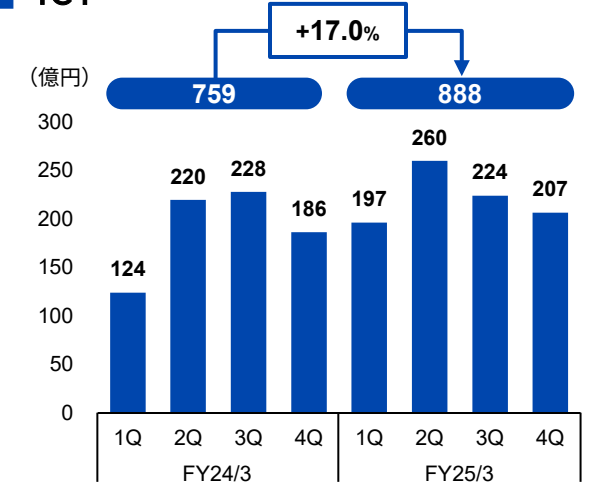
自動車



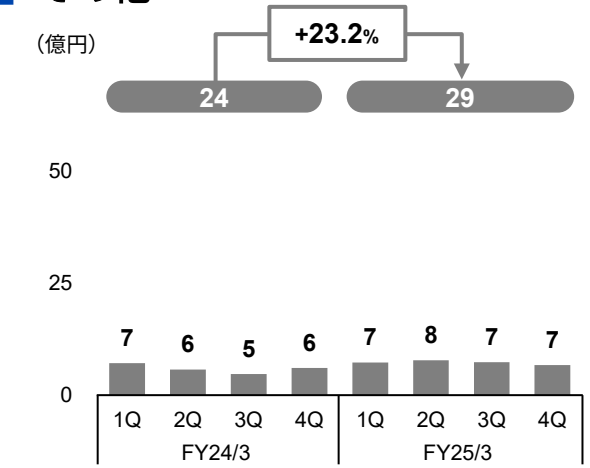
産業機器



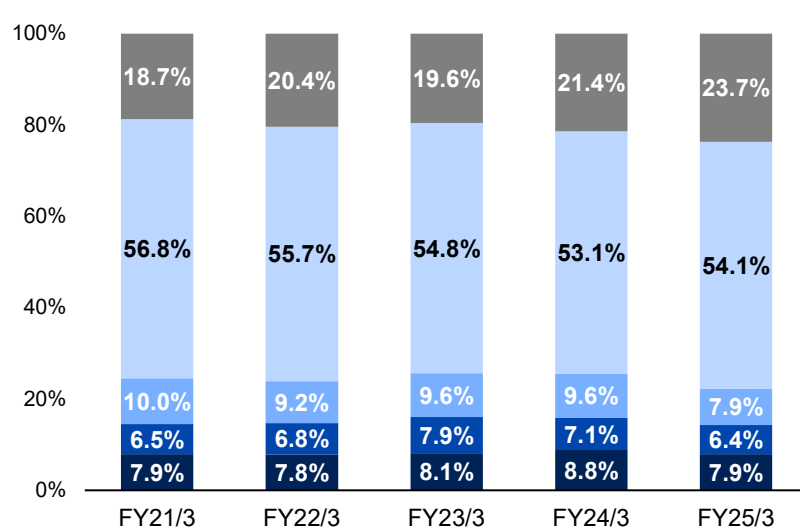
ICT



その他



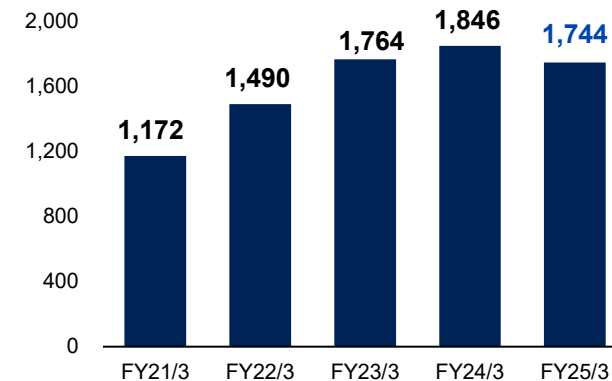
地域別通期売上高推移 (2021年3月期－2025年3月期)



日本

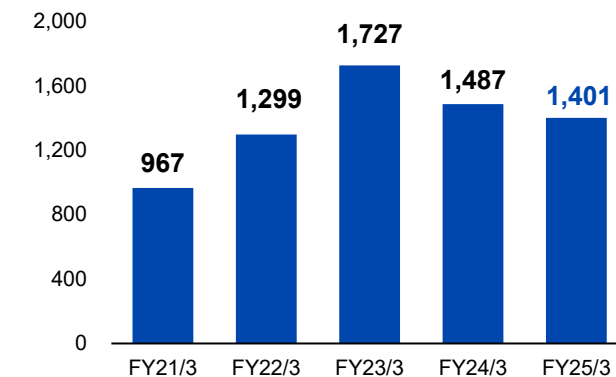
(億円)

■ アジア他
■ 中国
■ 欧州
■ 米州
■ 日本



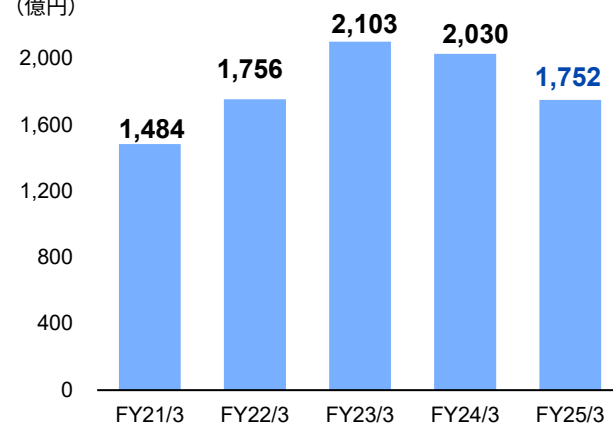
米州

(億円)



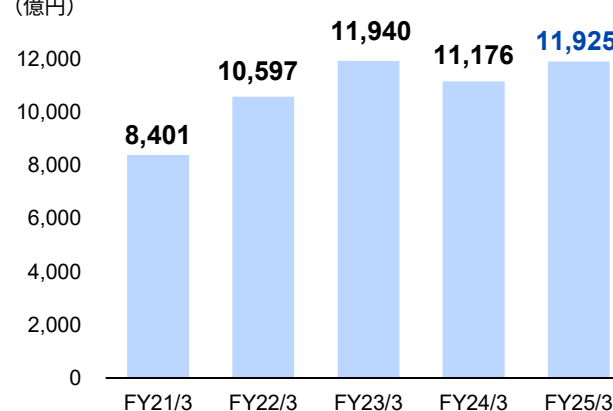
欧州

(億円)



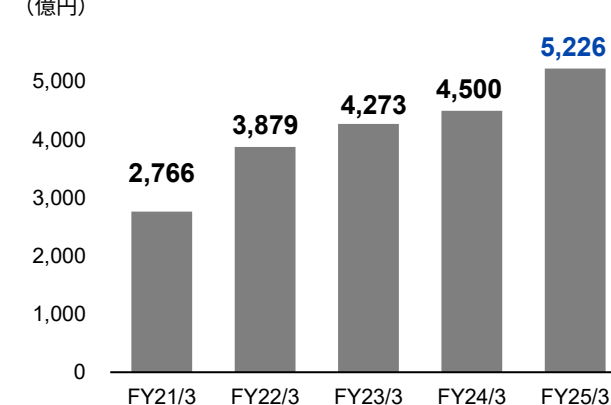
中国

(億円)

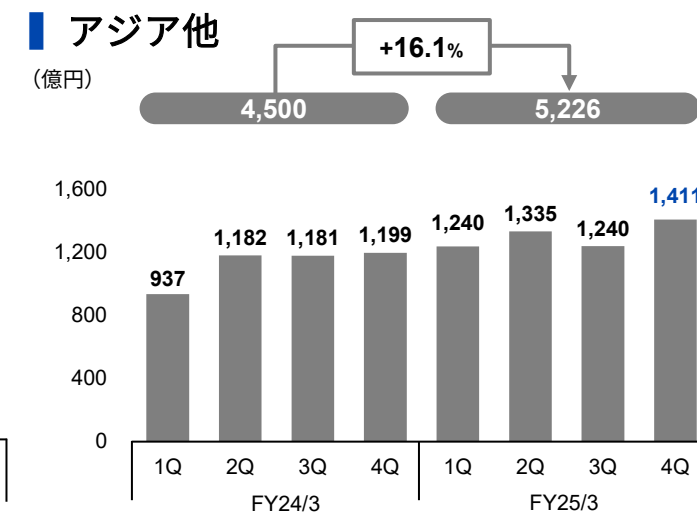
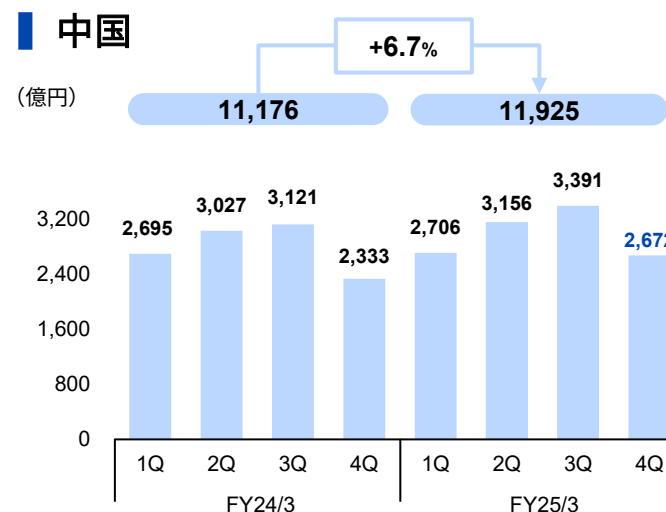
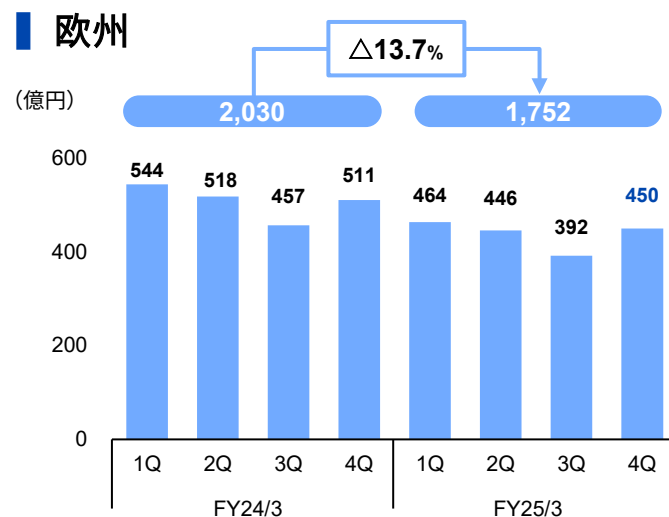
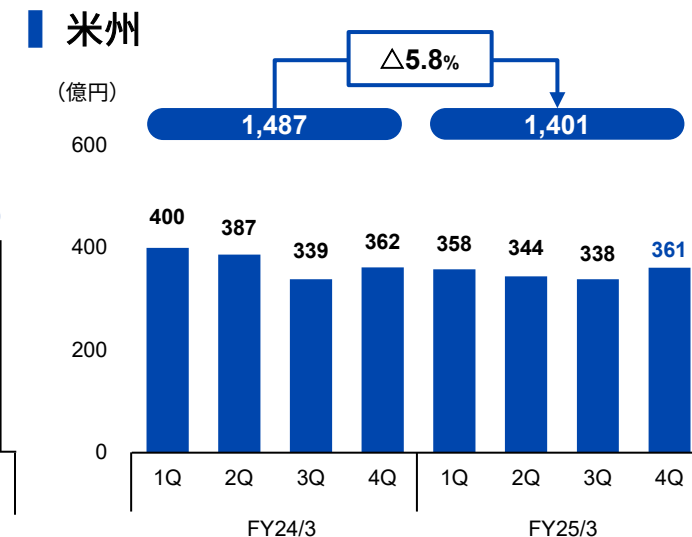
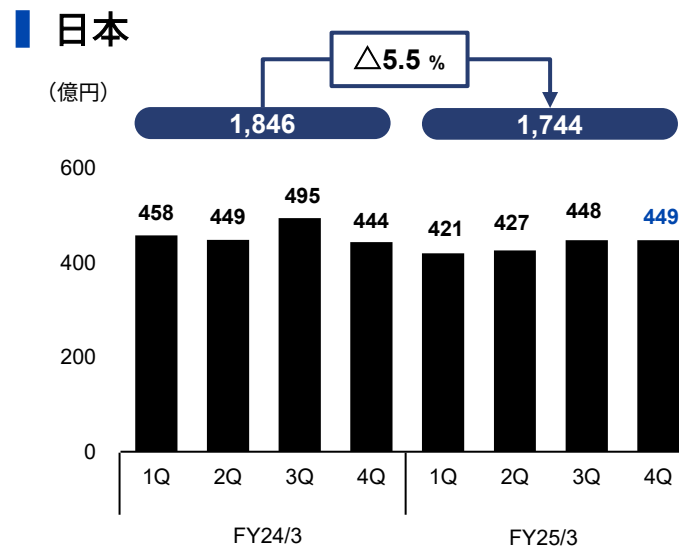
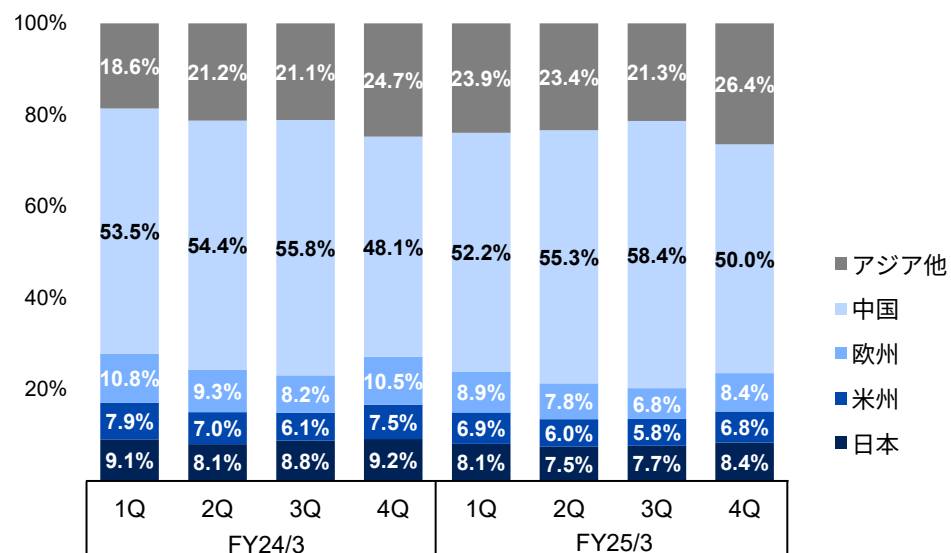


アジア他

(億円)

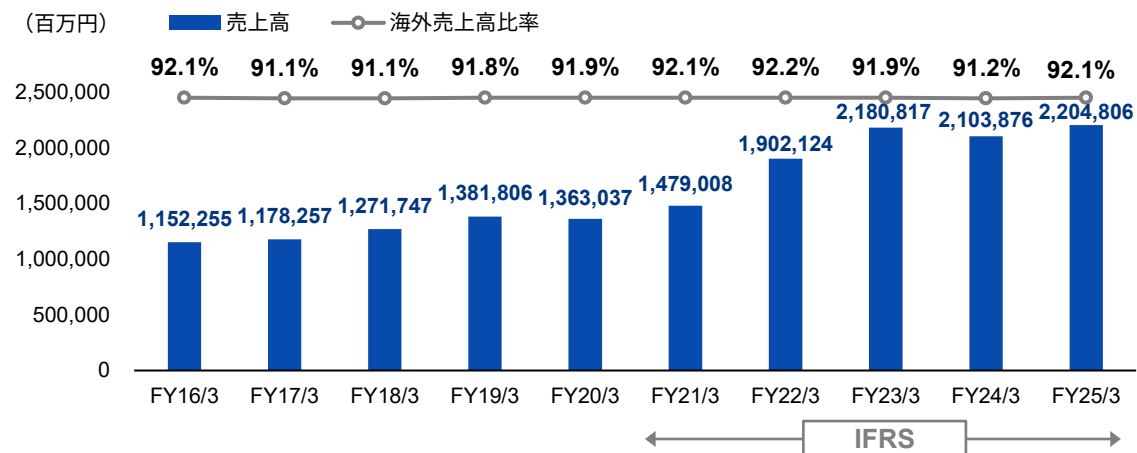


地域別四半期売上高推移 (2024年3月期－2025年3月期)

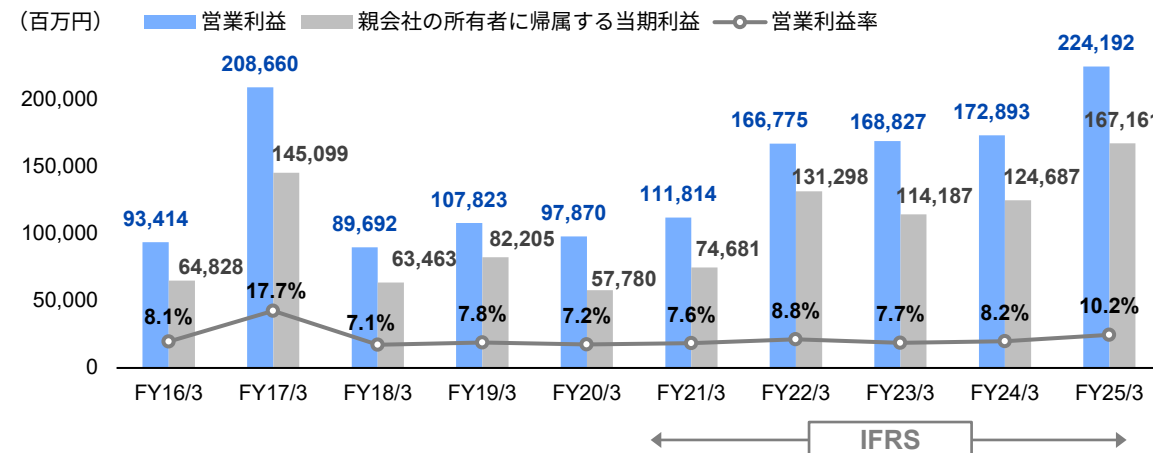


業績ハイライト 過去10年推移

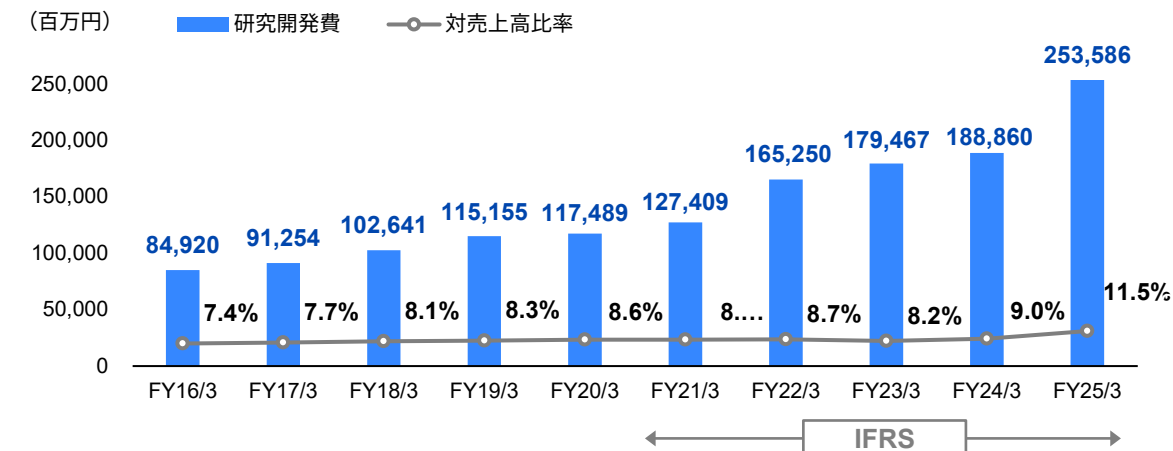
売上高・海外売上高比率



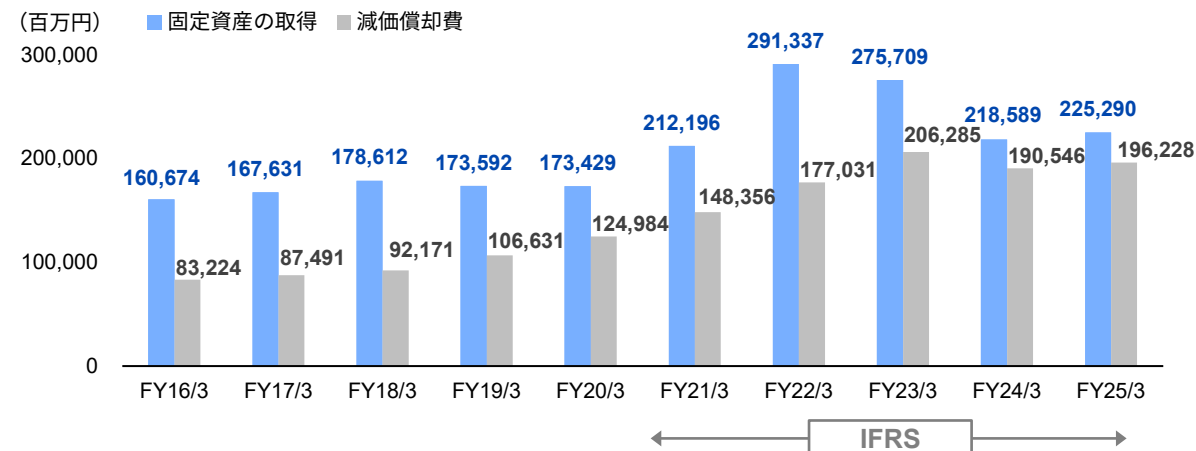
営業利益・営業利益率・親会社の所有者に帰属する当期利益



研究開発費・対売上高比率

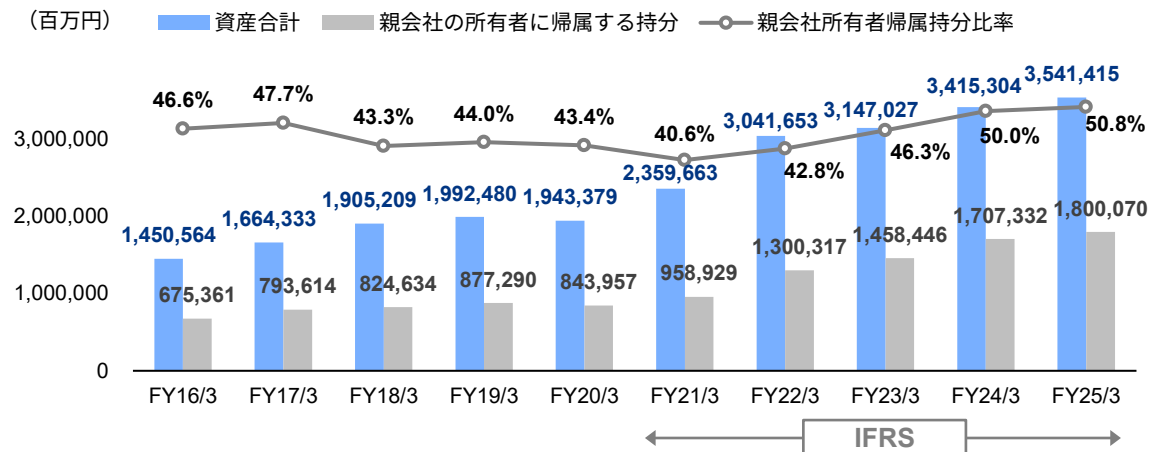


固定資産の取得・減価償却費

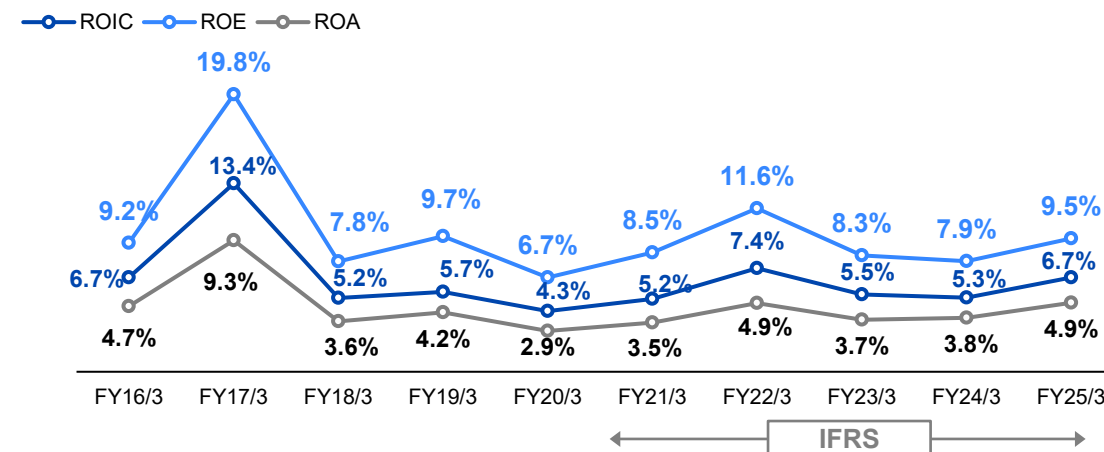


業績ハイライト 過去10年推移

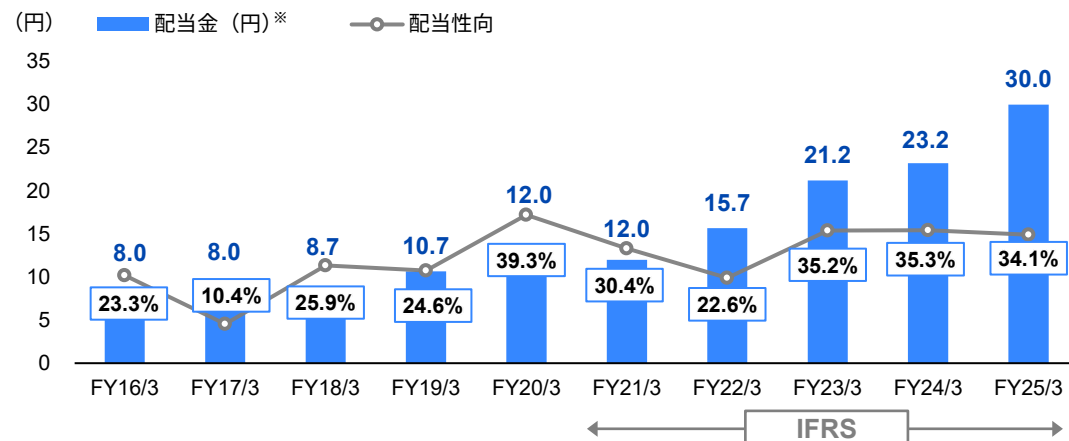
■ 資産合計・親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率



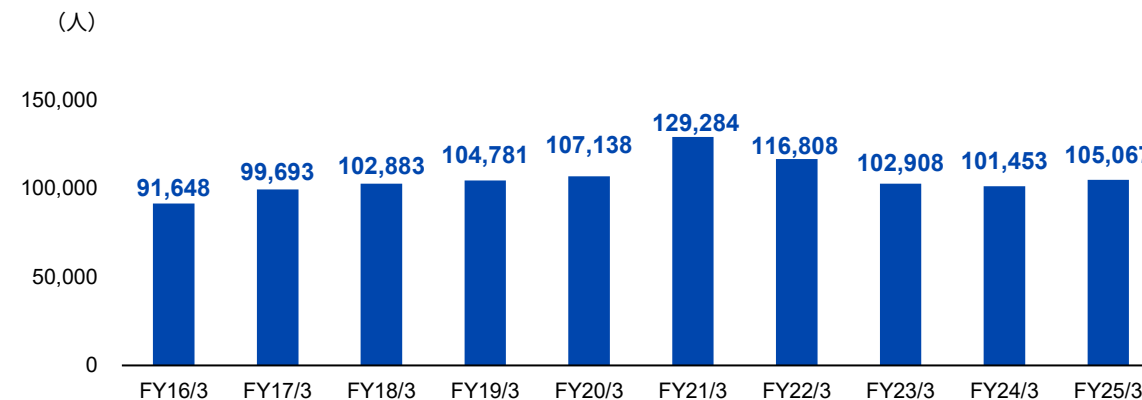
■ ROIC・ROE・ROA



■ 配当金・配当性向



■ 従業員数



※配当金は、2024年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行った換算後の金額を記載しています。

インデックスへの組み入れ・外部機関からの評価

Attracting Tomorrow



インデックス



JPXプライム150指数



FTSE4Good
Index Series



FTSE Blossom
Japan Index



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



MSCI ESG Leaders
Indexes ※1

2024 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数 ※2

2024 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数 ※2



Morningstar Japan
ex-REIT Gender
Diversity Tilt Index

※1,2 THE INCLUSION OF TDK CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF TDK CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

外部機関からの評価



Extel Japan Executive
Team Survey
Most Honored Company
(2025)



WICIジャパン
統合レポート・アワード
Gold Award (2024)



日経統合報告書アワード
優秀賞
(2022-2024)



Clarivate Top 100
グローバル・イノベーター
(10回目)



S&P Global Sustainability
Yearbook Member
(2020-2024)



CDP気候変動 A (2024)
CDP水セキュリティ対策
A (2020-2024)



CDPサプライヤー・
エンゲージメント・リーダー
(2020-2023)



Ecovadis Sustainability
Rating
Gold (2024)



健康経営優良法人
(大規模法人部門)
(2023、2024)



work with Pride
Gold (2024)



ESGファイナンス・アワード・
ジャパン
「環境サステナブル企業」
(2024)



ESGファイナンス・アワード・
ジャパン
「環境開示プロGRESS企業」
(2024)

将来に関する記述についての注意事項

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載いたします。
https://www.tdk.com/ja/ir/ir_events/conference/2025/4q_1.html